

機器説明書
ベーシックモデル
顔照合サーバー
インストール編

第1.01版

2022年7月1日

パナソニック コネクト株式会社

| | |
|---|----|
| 改版履歴 | 2 |
| 1. はじめに | 5 |
| 2. ベーシックモデル 顔照合サーバー インストール手順 | 6 |
| 2.1 インストールバッチを実行する前の作業 | 8 |
| 2.2 インストールバッチの基本的な進め方 | 10 |
| 2.3 インストールバッチ実行手順 | 11 |
| 2.3.1 Windows Server の設定 | 11 |
| 2.3.2 各ミドルウェアのインストール | 13 |
| 2.3.3 データベースの作成 | 18 |
| 2.3.4 データベーステーブルの作成 | 22 |
| 2.3.5 DeepFace のインストール | 25 |
| 2.3.6 顔照合サーバーのインストール | 26 |
| 2.4 動作確認 | 27 |
| 2.4.1 管理ポータルログイン確認 | 27 |
| 2.4.2 顔登録の確認 | 28 |
| 2.4.3 顔認証の確認 | 28 |
| 2.5 不要ファイルの削除 | 29 |
| 3. ベーシックモデル 顔照合サーバー バージョンアップ手順 | 30 |
| 3.1 事前準備 | 31 |
| 3.1.1 NVIDIA の GPU ドライバーバージョン確認 | 32 |
| 3.1.2 Google Chrome のバージョンアップ | 33 |
| 3.2 プロセスの停止 | 35 |
| 3.2.1 IIS の停止 | 35 |
| 3.2.2 顔照合サーバーのプロセス停止 | 36 |
| 3.3 各種データのバックアップ | 37 |
| 3.3.3 DeepFace のバックアップ | 37 |
| 3.3.4 顔照合サーバーアプリケーションのバックアップ | 37 |
| 3.3.5 顔照合サーバーDB のバックアップ | 37 |
| 3.4 バージョンアップバッチの基本的な進め方 | 38 |
| 3.5 顔照合サーバーアプリケーションのバージョンアップ | 39 |
| 3.5.1 顔照合サーバーアプリケーションバージョンアップバッチの実行 | 39 |
| 3.5.2 顔照合サーバー設定ファイルの移行 | 40 |
| 3.6 PostgreSQL のバージョンアップ | 41 |
| 3.7 DeepFace のバージョンアップ | 44 |
| 3.7.1 DeepFace バージョンアップバッチを実行 | 44 |
| 3.7.2 DeepFace の設定ファイル移行 | 44 |
| 3.8 顔照合サーバーの特徴量の同期 | 45 |
| 3.8.1 顔照合サーバーのキャッシュファイルの削除 | 45 |
| 3.8.2 顔照合サーバーの有効化 | 45 |
| 3.9 PC の起動 | 46 |
| 3.9.1 KPAS 管理サーバーの接続と起動 | 46 |
| 3.9.2 顔照合サーバーの起動と確認 | 47 |
| 3.10 動作確認 | 48 |

| | | |
|--------|-------------------------|----|
| 3.10.1 | 管理ポータルログイン確認 | 48 |
| 3.10.2 | 顔登録の確認 | 49 |
| 3.10.3 | 顔認証の確認 | 49 |
| 3.11 | 不要ファイルの削除 | 50 |
| 4. | ベーシックモデル 顔照合サーバー 切り戻し手順 | 51 |
| 4.1 | 事前準備 | 51 |
| 4.2 | プロセスの停止 | 53 |
| 4.2.1 | IIS の停止 | 53 |
| 4.2.2 | 顔照合サーバーのプロセス停止 | 54 |
| 4.3 | 各種データの切り戻し | 55 |
| 4.3.1 | DeepFace の切り戻し | 55 |
| 4.3.2 | 顔照合サーバーアプリケーションの切り戻し | 55 |
| 4.4 | 顔照合サーバーの特徴量の同期 | 56 |
| 4.4.1 | 顔照合サーバーのキャッシュファイルの削除 | 56 |
| 4.4.2 | 顔照合サーバーの有効化 | 56 |
| 4.5 | 動作確認 | 57 |
| 4.5.1 | KPAS 管理サーバーの接続と起動 | 57 |
| 4.5.2 | 顔照合サーバーの起動と確認 | 58 |
| 4.5.3 | 管理ポータルログイン確認 | 59 |
| 4.5.4 | 顔登録の確認 | 60 |
| 4.5.5 | 顔認証の確認 | 60 |

1. はじめに

本書は、「顔認証 入退セキュリティシステム KPAS」v1.1 のベーシックモデル顔照合サーバーのインストール等の手順を説明するドキュメントです。

以下の構成で説明しています。

2. ベーシックモデル 顔照合サーバー インストール手順
3. ベーシックモデル 顔照合サーバー バージョンアップ手順
4. ベーシックモデル 顔照合サーバー 切り戻し手順

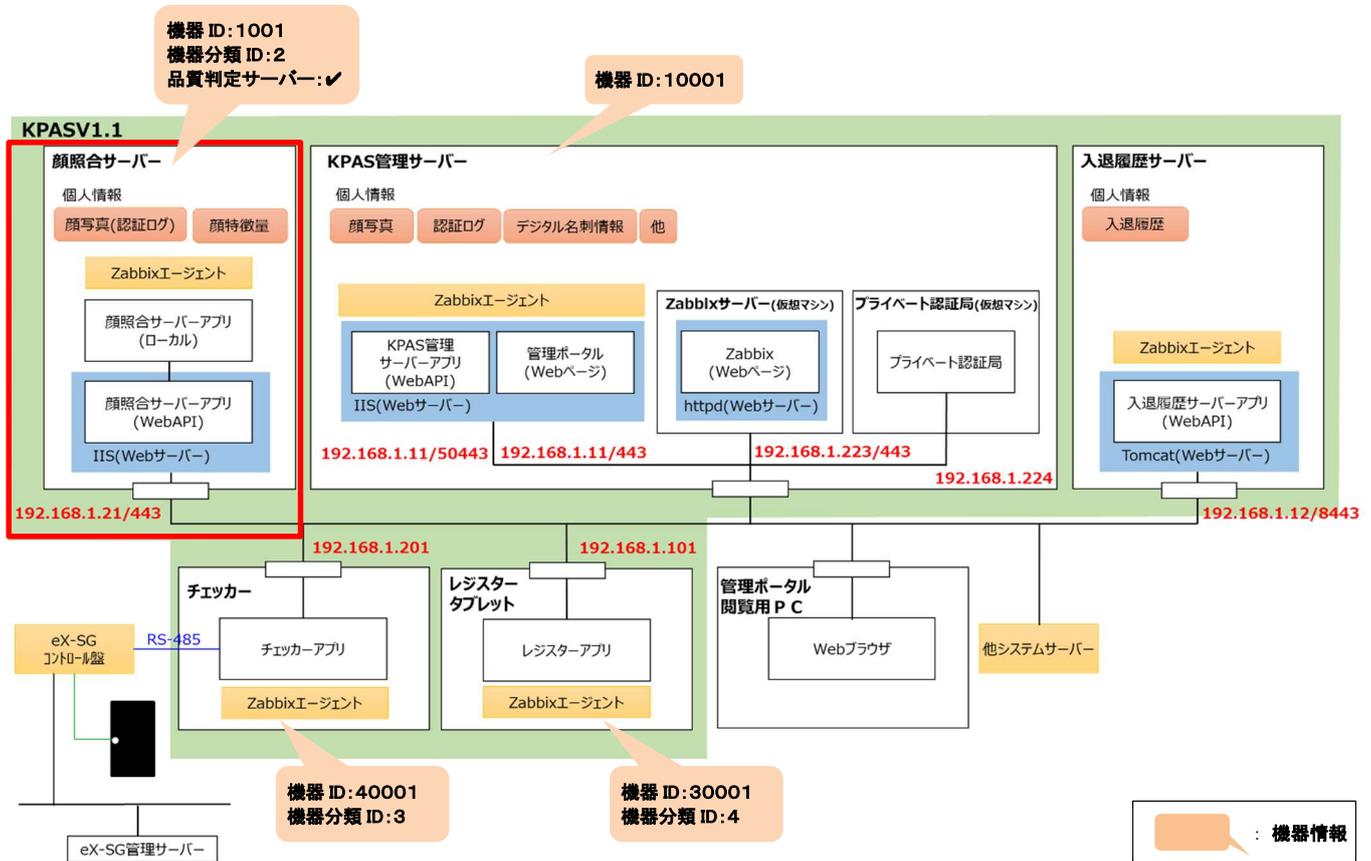
2. ベーシックモデル 顔照合サーバー インストール手順

本章は、出荷状態のレジスター・チェッカーを動作させるための顔照合サーバーのインストール手順を説明するドキュメントです。機器構成はデフォルト設定として以下の図のように設定していく前提で説明を行います。

※設定変更を行う場合は、別冊「機器説明書 KPAS システム 設定編」を参照してください。

！！重要！！

顔照合サーバーは KPAS 管理サーバーが起動していないと正常に起動しません。



● インストール作業前に以下について準備できているか確認してください。

1) サーバー本体(以下、「サーバー」という)

仕様要件

| | |
|-----|--|
| CPU | Intel Xeon E-2174G 以上の性能 |
| GPU | NVIDIA Quadro P2000 以上の性能 |
| メモリ | 32 GB 以上 |
| NIC | 5 個以下 |
| OS | Windows Server 2016 Standard Windows Server 2019 Standard |

2) KPAS 管理サーバー

3) KPAS のインストールメディア

4) DeepFace ライセンスファイル

5) ネットワークハブおよび LAN ケーブル(ハブ×1、ケーブル×2)

※作業中はサーバーとハブを LAN ケーブルで接続し、NIC がリンクアップしている状態を維持してください。

● インストールの流れ

インストールは各バッチを実行し、数回のキーボード入力およびマウス操作で自動的に行われます。上から順に7個のバッチを実行することでサーバーの構築が完了します。

※Windows Server 2016 および Windows Server 2019 (以下、「Windows Server」という)

| 項目 | 概要 | 実行するバッチファイル |
|---------------------------------------|--|----------------------|
| 1.Windows Server の設定 | IP アドレス、Firewall、SSL、NTP の設定 | 01setupWindows.bat |
| 2.各ミドルウェアのインストール | Zabbix-agent、IIS、RewriteModule、PostgreSQL、pgadmin、psqlodbc、TDE のインストール | 02middleware.bat |
| 3.データベースの作成 | データベースの作成と暗号化設定 | 03encryption.bat |
| 4.データベーステーブルの作成 | データベースへのテーブルの流し込み、PostgreSQL バージョンアップ | 04setTable_verup.bat |
| 5.DeepFace のインストール | DeepFace のインストール、設定 | 05deepface.bat |
| 6.顔照合サーバーのインストール | 顔照合サーバーのインストール、設定 | 06setupFace.bat |
| チェッカーやレジスターを接続し、デジタル名刺登録や認証の動作確認を実施する | | |
| 7.不要ファイルの削除 | インストールおよび動作確認のためにコピーしたファイルの削除、認証ログの削除 | 07delete.bat |

※※注意事項※※

すべてのバッチを実行後、プライベート認証局を構築し、SSL 証明書を発行・設定する必要があります。手順は別冊「機器説明書 KPAS システム 設定編」を参照してください。

2.1 インストールバッチを実行する前の作業

- ・Windows Server 管理者ユーザー「Administrator」のパスワードは「Pana0123」に設定してください。
- ・使用する GPU のドライバーをインストールしてください。(GPU ドライバー: 441.22 以上 / CUDA10.2 以上)
詳細は NVIDIA ホームページ(<https://www.nvidia.co.jp/Download/index.aspx?lang=jp>)をご確認ください。

① インストール後に、デスクトップ画面で右クリックし、[NVIDIA コントロール パネル]をクリックします



② NVIDIA コントロール パネルの[ヘルプ]-[システム情報]をクリックします



③ システム情報の[コンポーネント]をクリックし、ファイル名「NVCUDA64.DLL」を確認してください



・GPU ドライバーのバージョン

ファイルバージョンの末尾から 5 桁を取って、下 2 桁が小数点以下の表示になります。

例: 27.21.14.6109 → 461.09

・CUDA のバージョン

製品名の先頭から 3 桁を取って、そのままの表示になります。

例: 11.2.109 → 11.2

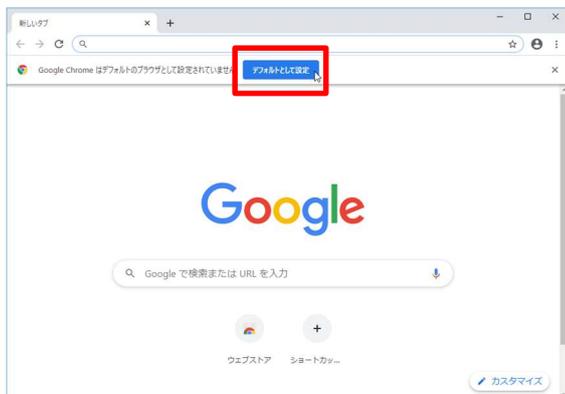
・Google Chrome をインストールし、デフォルトのブラウザとして設定してください。

※動作確認済み Google Chrome バージョン:91.0.4472.114(Official Build) (64 ビット)

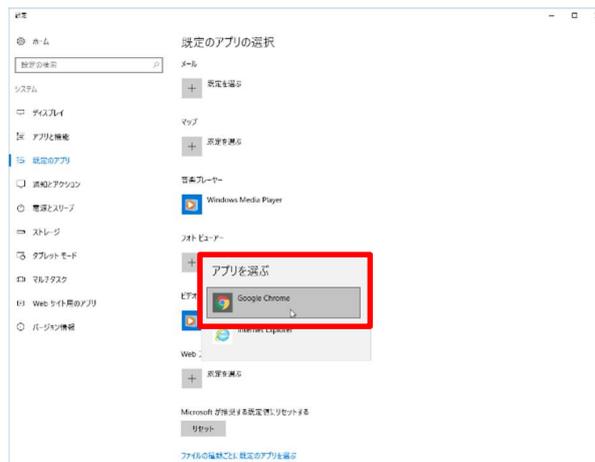
Google Chrome インストーラーのダウンロード先は以下を参照してください。

<https://www.google.com/intl/ja/chrome/?standalone=1>

Google Chrome 初回起動時画面



Windows 設定画面

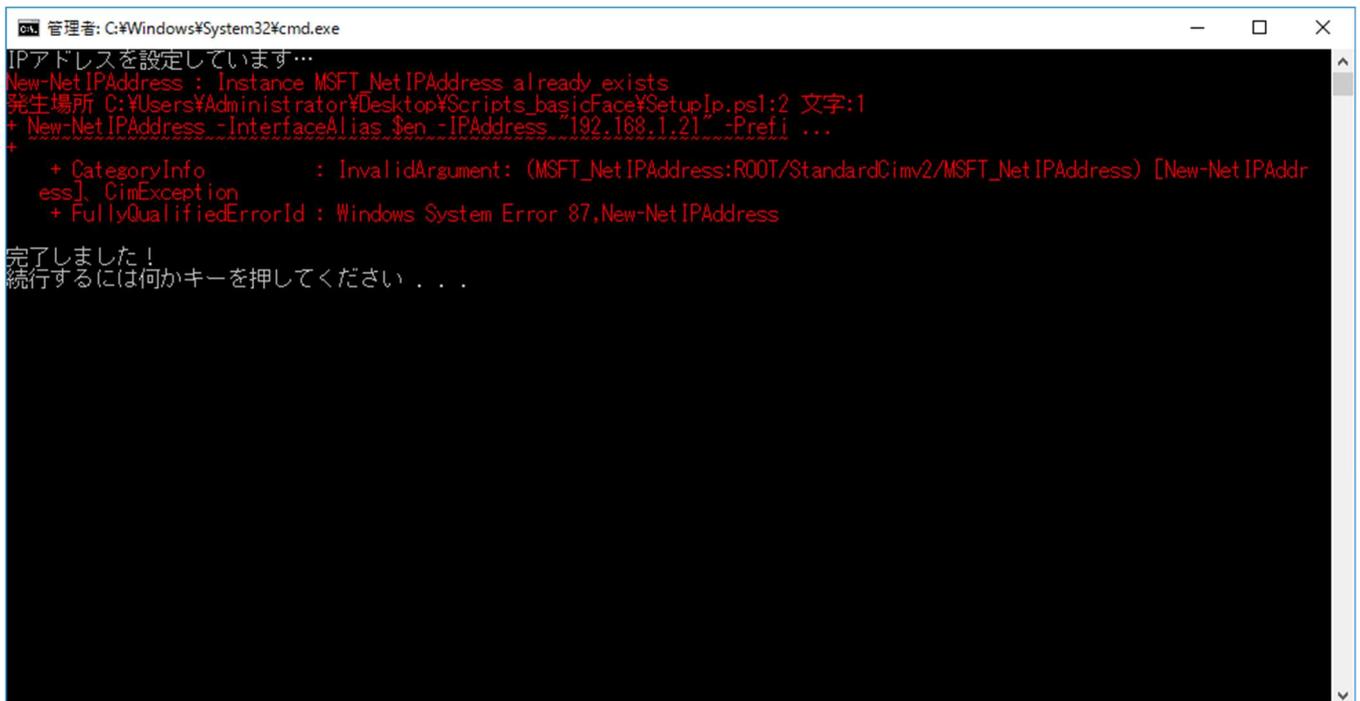


- ・サーバーとハブを LAN ケーブルで接続し、サーバーの NIC をリンクアップしてください。
- ・インストールメディア¥SE 用フォルダーを C:¥にコピーしてください。
- ・C:¥SE 用¥DeepfaceLicense フォルダーに DeepFace ライセンスファイルをコピーしてください。
ライセンスファイル名 (license_MAC アドレス.dat) を変更する必要はありません。
- ・C:¥SE 用¥Scripts¥Scripts_basicFace フォルダーをデスクトップにコピーしてください。
- ・[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル] を選択し、[デスクトップのカスタマイズ]-[エクスプローラーのオプション]をクリックします。[表示]をクリックし、「登録されている拡張子は表示しない」のチェックを外して[OK]をクリックしてください。
- ・サーバーの時刻を正しく設定してください。
[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル] を選択し、[時計、言語、および地域]-[日付と時刻]をクリックします。[日付と時刻の変更(D)...]をクリックして正しい時刻に設定してください。
タイムゾーンは「(UTC+09:00)大阪、札幌、東京」以外設定しないでください。

2.2 インストールバッチの基本的な進め方

- ・バッチは「管理者として実行」してください。
- ・「続行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。
- ・バッチ実行中に赤字でメッセージが表示された場合、処理が正常に完了していない可能性があります。

以下の例では「IPアドレスを設定しています...」の処理でエラーが出ているため、IPアドレスの設定を見直す必要があります。



```
管理: C:\Windows\System32\cmd.exe
IPアドレスを設定しています...
New-NetIPAddress : Instance MSFT_NetIPAddress already exists
発生場所 C:\Users\Administrator\Desktop\Scripts_basicFace\SetupIp.ps1:2 文字:1
+ New-NetIPAddress -InterfaceAlias $en -IPAddress "192.168.1.21" -Prefi ...
+ ~~~~~
+ CategoryInfo          : InvalidArgument: (MSFT_NetIPAddress:ROOT/StandardCimv2/MSFT_NetIPAddress) [New-NetIPAddr
ess], CimException
+ FullyQualifiedErrorId : Windows System Error 87,New-NetIPAddress

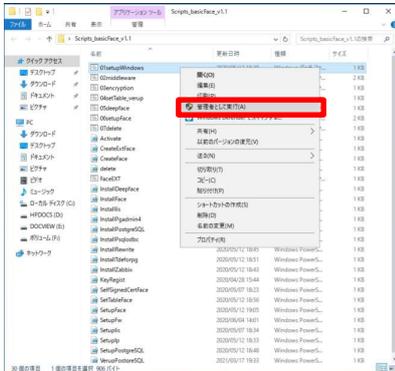
完了しました！
続行するには何かキーを押してください . . .
```

2.3 インストールバッチ実行手順

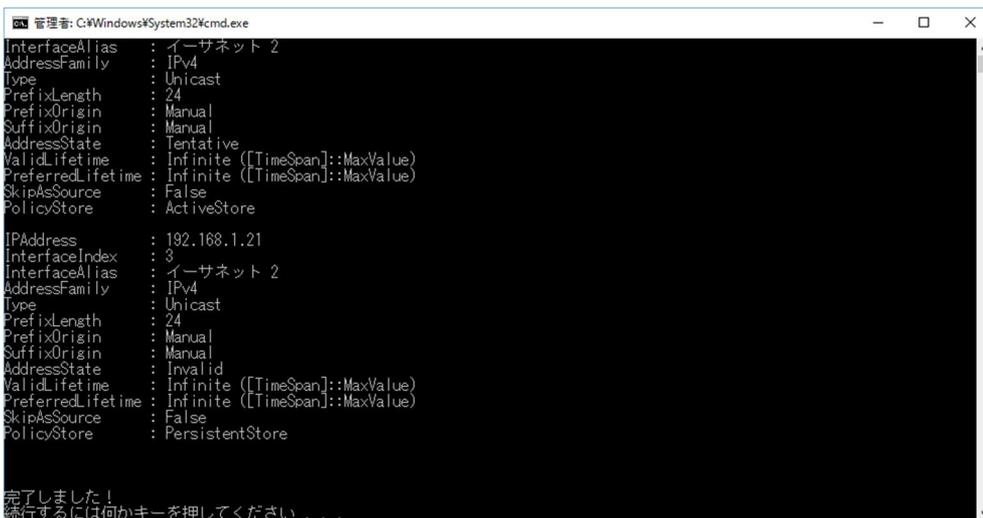
以下の手順に従い、各インストールバッチを実行してください。

2.3.1 Windows Server の設定

- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを開き[01setupWindows.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。



- 2) 「続行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。



- 3) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。
- 4) Firewall に下記ルールが有効の場合、無効に設定してください。(はじめから無効もしくは存在しない場合もあり)
[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル]をクリックし、[システムとセキュリティ]-[Windows ファイアウォール]をクリックし、左ペインより[詳細設定]をクリックします。[受信の規則]をクリックします。
 - ・[受信の規則]-[Windows リモート管理(HTTP 受信)](プロファイル ドメイン、プライベート)を選択し、[規則の無効化]をクリックします。
 - ・[受信の規則]-[Windows リモート管理(HTTP 受信)](プロファイル パブリック)を選択し、[規則の無効化]をクリックします。
 - ・[受信の規則]-[ファイルサーバーリモート管理(DCOM 受信)]を選択し、[規則の無効化]をクリックします。
 - ・[受信の規則]-[ファイルサーバーリモート管理(SMB 受信)]を選択し、[規則の無効化]をクリックします。
 - ・[受信の規則]-[ファイルサーバーリモート管理(WMI 受信)]を選択し、[規則の無効化]をクリックします。

以下の項目を確認してください。

① IP アドレスが「192.168.1.21」に設定されていること

[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル]をクリックし、[ネットワークとインターネット]-[ネットワークと共有センター]をクリックし、左ペインより[アダプターの設定の変更]をクリックします。アクティブになっている「イーサネット」を右クリックし、プロパティを選択します。

[インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]をクリックし、確認します。

※以下の場合、スクリプト実行中にエラーが表示されます。

- ・サーバーとハブの LAN ケーブル接続ができていなく NIC がリンクアップしていない
- ・既に IP アドレスの設定をしている

② Firewall に下記のルールが設定されていること

[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル]をクリックし、[システムとセキュリティ]-[Windows ファイアウォール]をクリックし、左ペインより[詳細設定]をクリックします。

[受信の規則]および[送信の規則]でルールが作成されていることを確認します。

受信規則:顔照合サーバ WebAPI HTTPS

受信規則:Zabbix サーバ In

受信規則:RPC 受信拒否

受信規則:NetBIOS UDP 受信拒否

受信規則:NetBIOS 受信拒否

受信規則:SMB 受信拒否

受信規則:PostgreSQL 受信拒否

受信規則:Windows リモート管理 (HTTP 受信拒否)

受信規則:タスク スケジューラとスプーラ 受信拒否

受信規則:TCP 9668 受信拒否

受信規則:TCP 49680 受信拒否

受信規則:TCP 49690 受信拒否

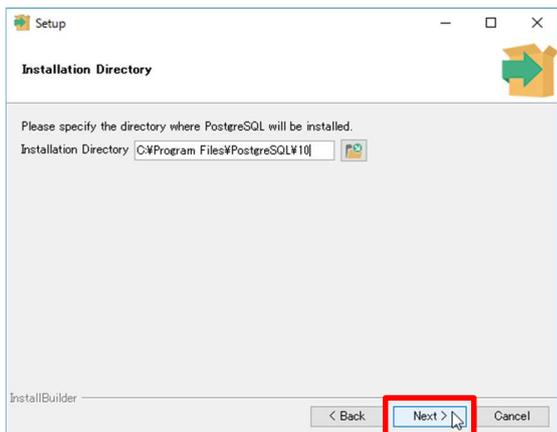
送信規則:Zabbix サーバ Out

2.3.2 各ミドルウェアのインストール

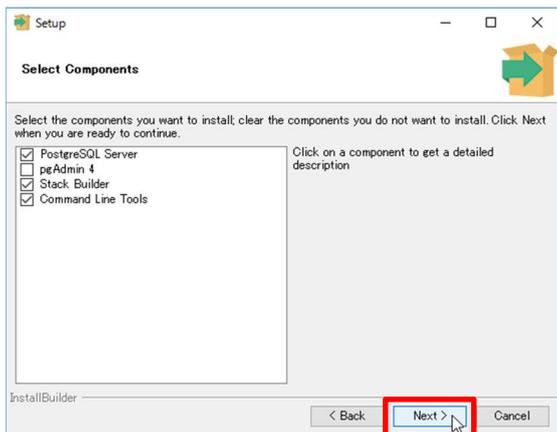
- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを開き[02middleware.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。以下、何かキーを押す以外について記載します。
- 2) PostgreSQL のインストールで「完了しました！ 続行するには何かキーを押してください...」と表示されますが、数秒後に PostgreSQL のインストールウィザードが立ち上がります。ウィザードの[Next]をクリックしてください。



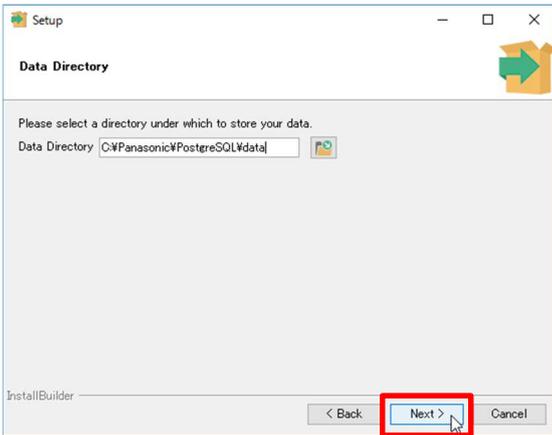
- 3) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



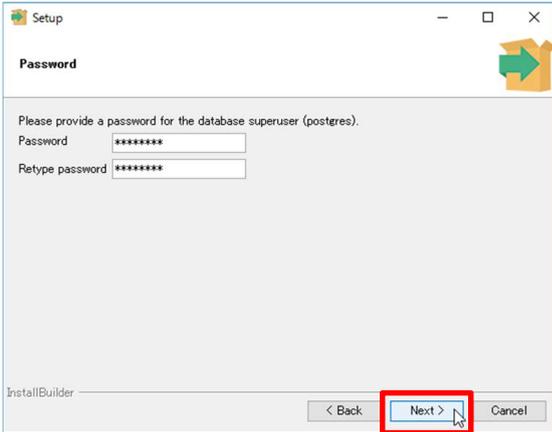
- 4) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



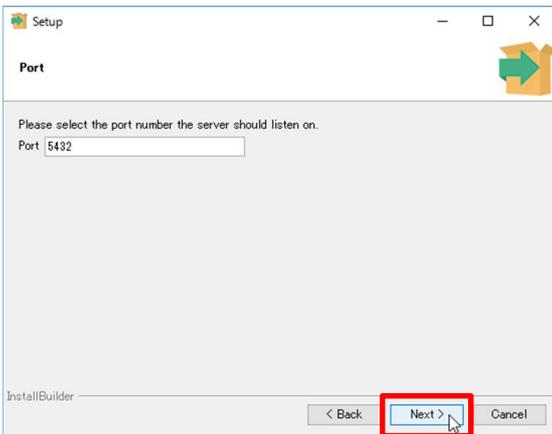
5) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



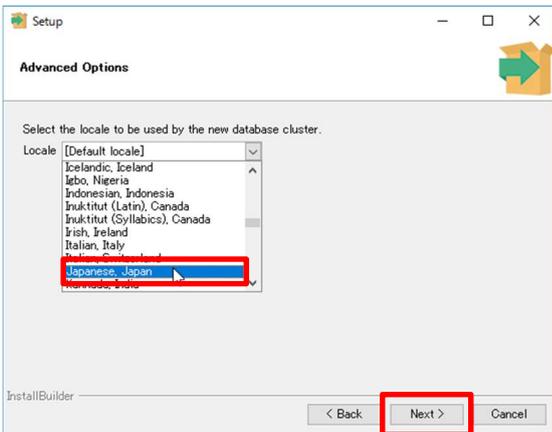
6) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



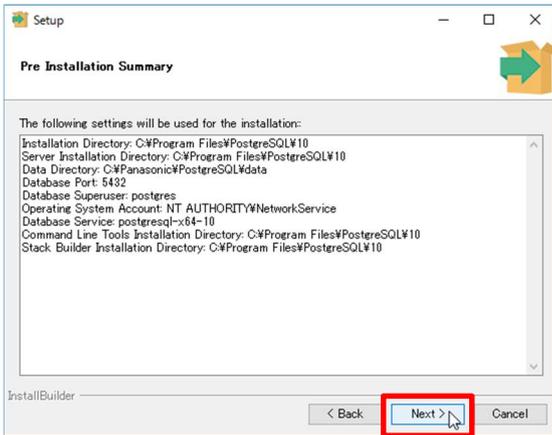
7) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



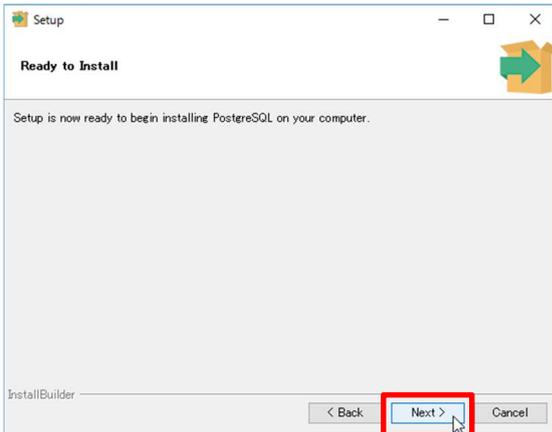
8) Locale をプルダウンメニューより「Japanese, Japan」に変更し、[Next]をクリックしてください。



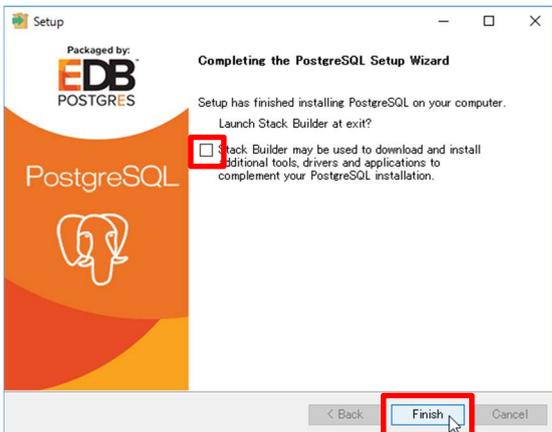
9) [Next]をクリックしてください。



10) [Next]をクリックしてください。



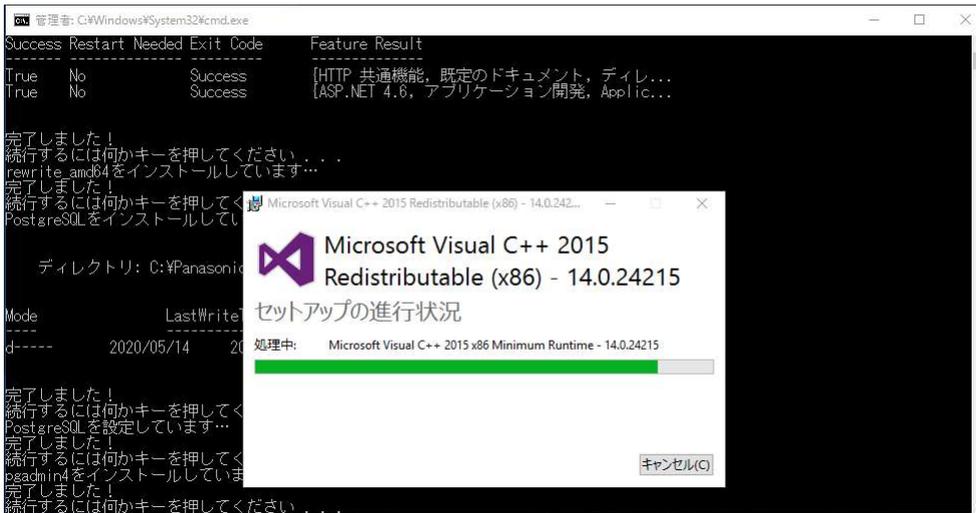
11) [Stack Builder may be used to download...]のチェックを外し、[Finish]をクリックしてください。



12) コマンドプロンプトのウィンドウに戻り、キーボードの何かキーを押してください。



- 13) pgadmin4 のインストールで「完了しました！ 続行するには何かキーを押してください...」と表示されますが、約 1 分後に以下の画面が数秒表示されたことを確認してからキーボードの何かキーを押してください。



- 14) TDEforPG のインストールで「完了しました！ 続行するには何かキーを押してください...」と表示されますが、数秒後に TDEforPG のインストールウィザードが立ち上がります。ウィザードの[次へ]をクリックしてください。



- 15) 何も変更せずそのまま[次へ]をクリックしてください。



- 16) [インストール]をクリックしてください。



17) [完了]をクリックしてください。



18) コマンドプロンプトのウィンドウに戻り、キーボードの何かキーを押してください。

19) バッチが完了すると Windows Server が再起動します。

以下の項目を確認してください。

① ミドルウェアが正常にインストールされていること

[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル]をクリックし、[プログラム]-[プログラムと機能]をクリックし、一覧に以下のプログラムがあることを確認します。

IIS URL Rewrite Module 2

pgAdmin 4 version 3.5

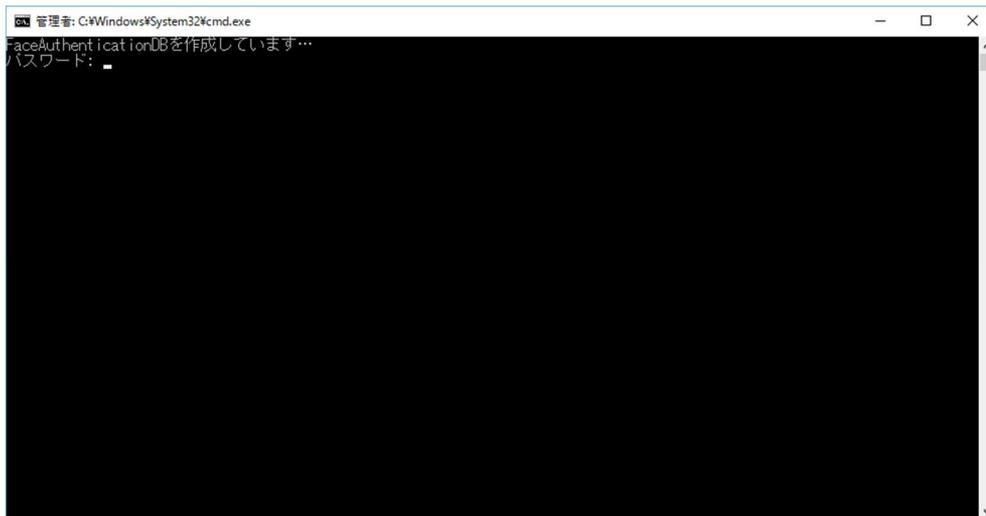
PostgreSQL 10

psqlODBC_x64

Transparent Data Encryption for PostgreSQL Free Edition (PostgreSQL 10)

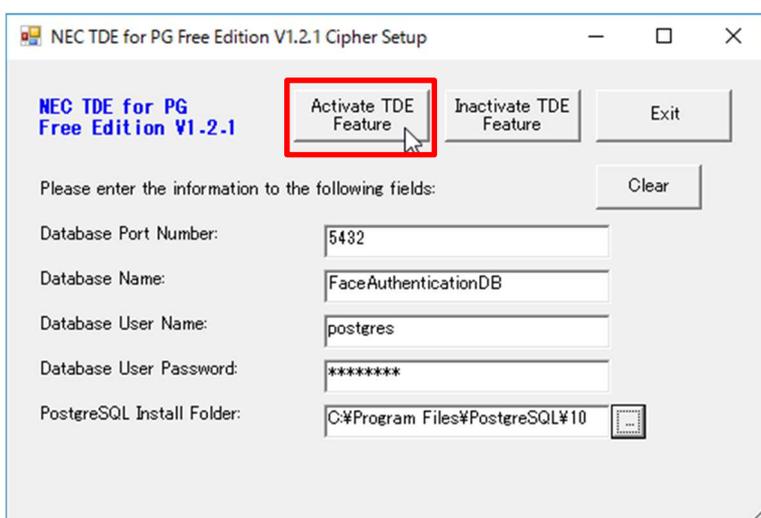
2.3.3 データベースの作成

- 1) Windows にログオンし、デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを開き[03encryption.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。以下、何かキーを押す以外について記載します。
- 2) 「FaceAuthenticationDB を作成しています… パスワード:」と表示されたら「postgres」と入力し、エンターキーを押してください。

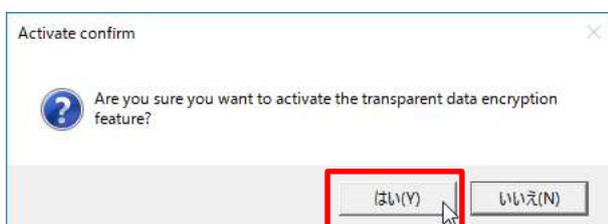


- 3) TDE for PG の暗号化設定画面が表示されます。以下の値を入力し、[Activate TDE Feature]をクリックしてください。

| 項目 | 説明 | 入力内容 |
|---------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| Database Port Number | ポート番号 | 5432 |
| Database Name | データベース名 | FaceAuthenticationDB |
| Database User Name | スーパーユーザー名 | postgres |
| Database User Password | スーパーユーザーのパスワード | postgres |
| PostgreSQL Install Folder | PostgreSQL がインストールされたフォルダーパス | C:\Program Files\PostgreSQL\10 |



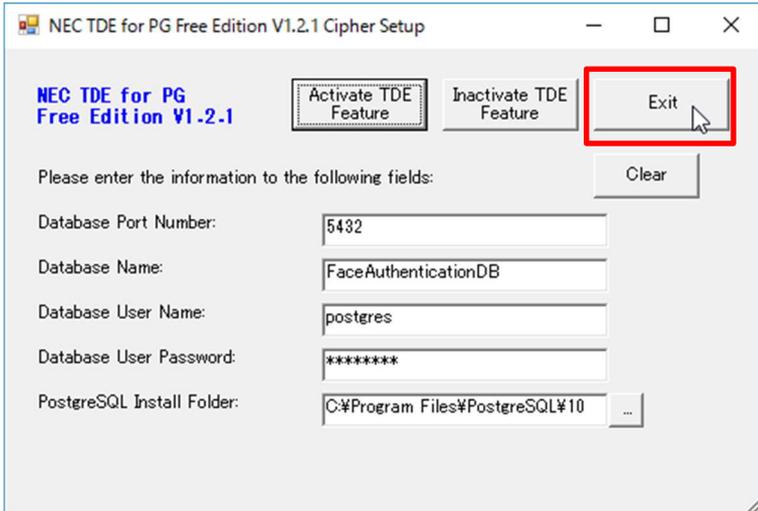
- 4) [はい]をクリックしてください。



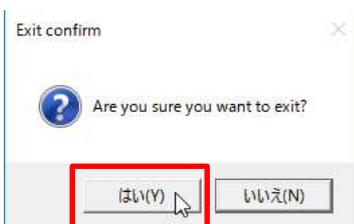
5) [OK]をクリックしてください。



6) [Exit]をクリックしてください。



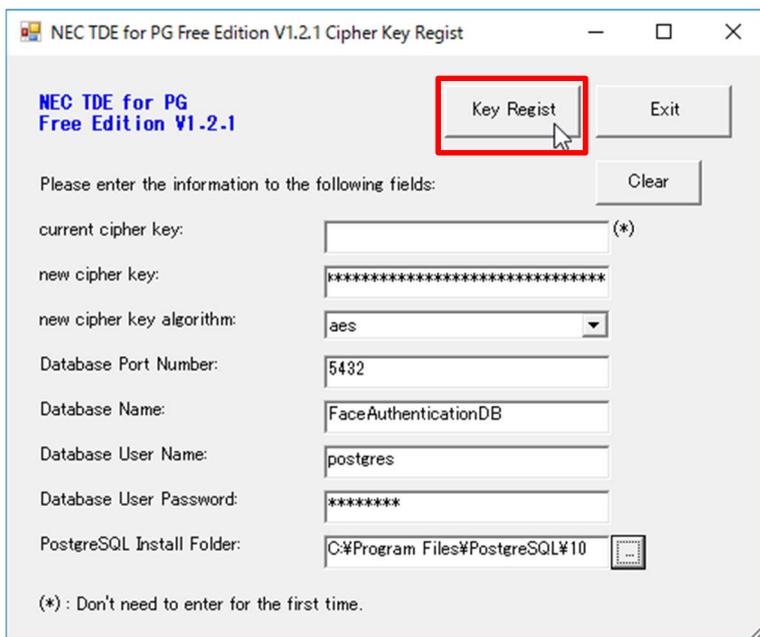
7) [はい]をクリックしてください。



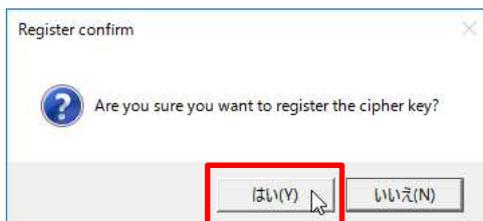
8) コマンドプロンプトのウィンドウに戻り、キーボードの何かキーを押してください。

9) TDE for PG の暗号鍵登録画面が表示されます。以下の値を入力し、[Key Regist]をクリックしてください。

| 項目 | 説明 | 入力内容 |
|---------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| current cipher key | 現在の暗号鍵(パスフレーズ) | 何も入力しない |
| New cipher key | 新しい暗号鍵(パスフレーズ) | 12345678901234567890123456789012 |
| New cipher key algorithm | 利用する暗号化アルゴリズム | aes |
| Database Port Number | ポート番号 | 5432 |
| Database Name | データベース名 | FaceAuthenticationDB |
| Database User Name | スーパーユーザー名 | postgres |
| Database User Password | スーパーユーザーのパスワード | postgres |
| PostgreSQL Install Folder | PostgreSQL がインストールされたフォルダーパス | C:\Program Files\PostgreSQL\10 |



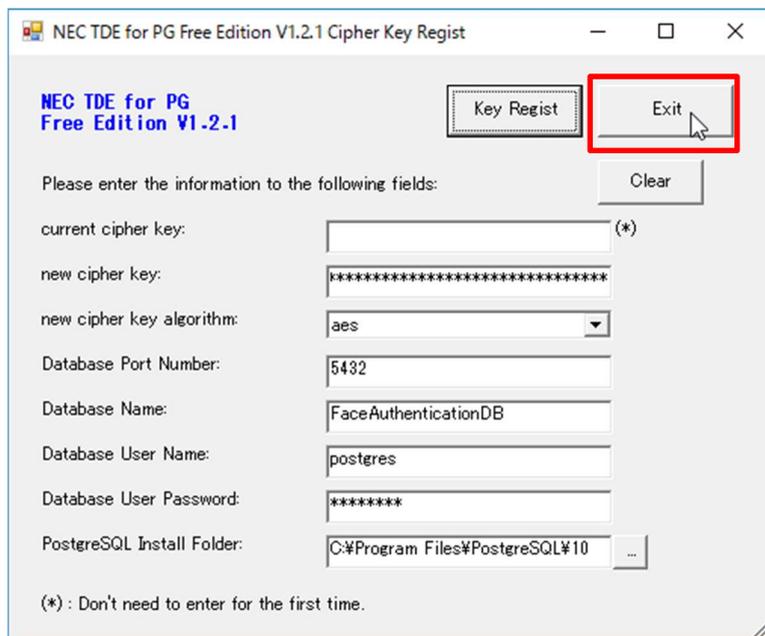
10) [はい]をクリックしてください。



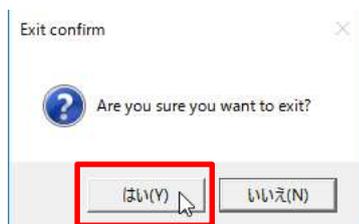
11) [OK]をクリックしてください。



12) [Exit]をクリックしてください。



13) [はい]をクリックしてください。



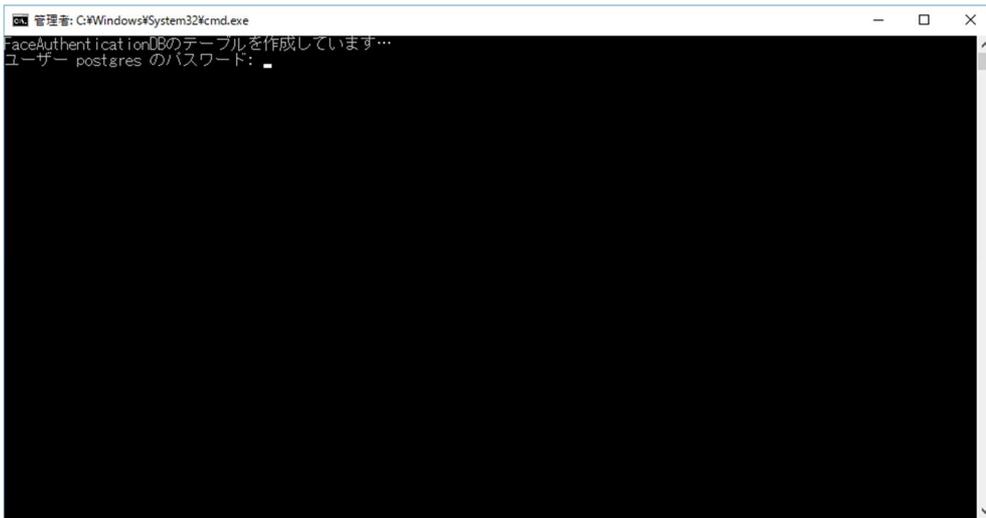
14) コマンドプロンプトのウィンドウに戻り、キーボードの何かキーを押してください。

15) バッチが完了すると Windows Server が再起動します。

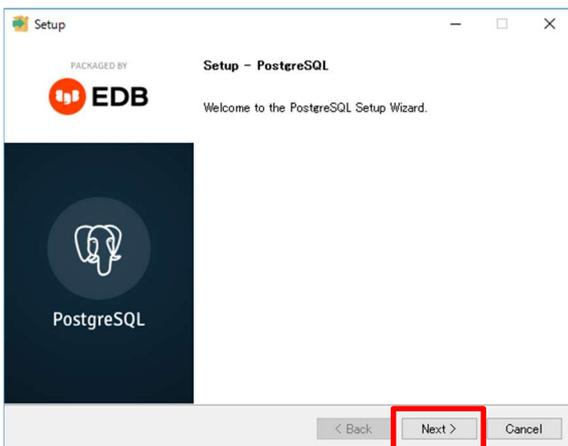
このバッチ完了後の確認項目はありません。

2.3.4 データベーステーブルの作成

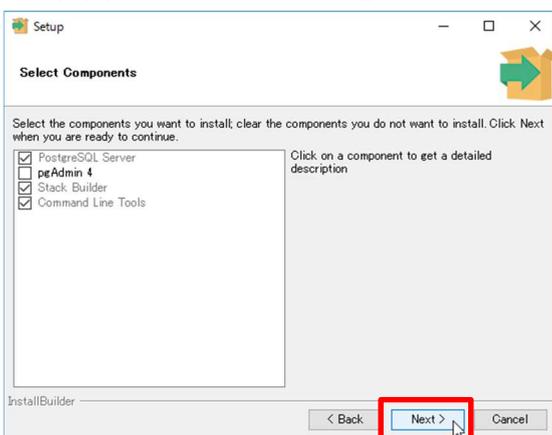
- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを開き[04setTable_verup.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。以下、何かキーを押す以外について記載します。
- 2) 「ユーザー postgres のパスワード:」と表示されたら「postgres」と入力し、エンターキーを押してください。



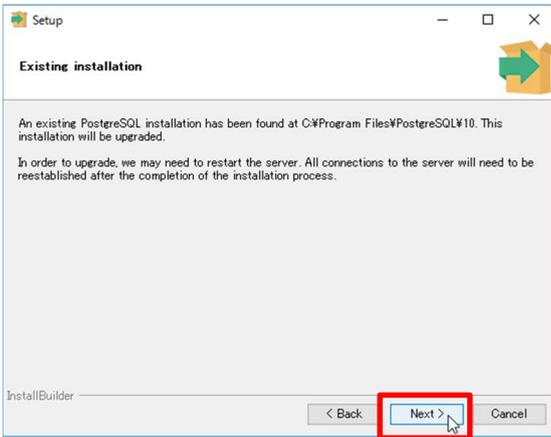
- 3) PostgreSQL のバージョンアップで「完了しました！続行するには何かキーを押してください...」と表示されますが、数秒後に PostgreSQL のインストールウィザードが立ち上がります。ウィザードの[Next]をクリックしてください。



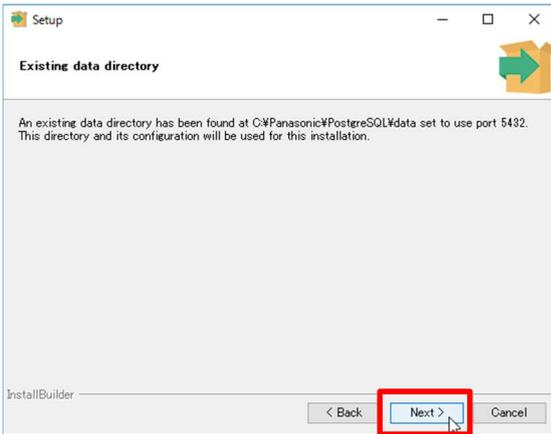
- 4) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



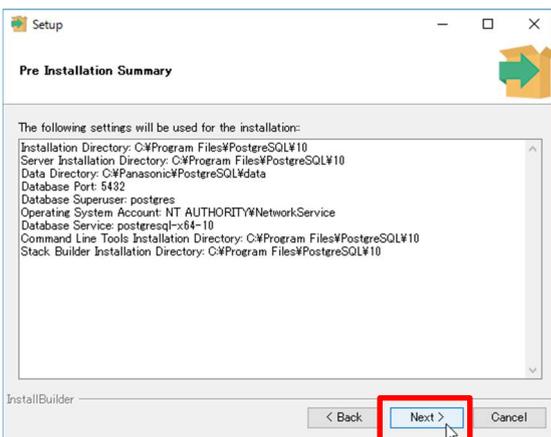
5) [Next]をクリックしてください。



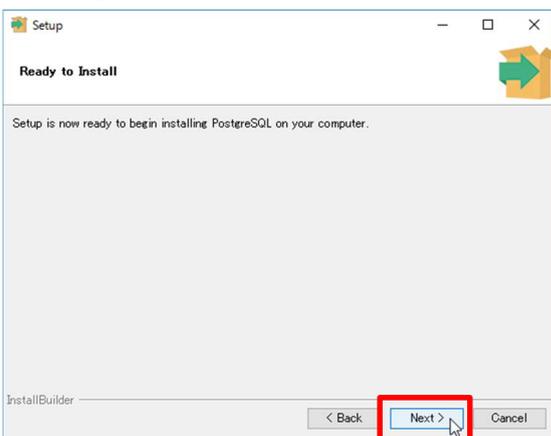
6) [Next]をクリックしてください。



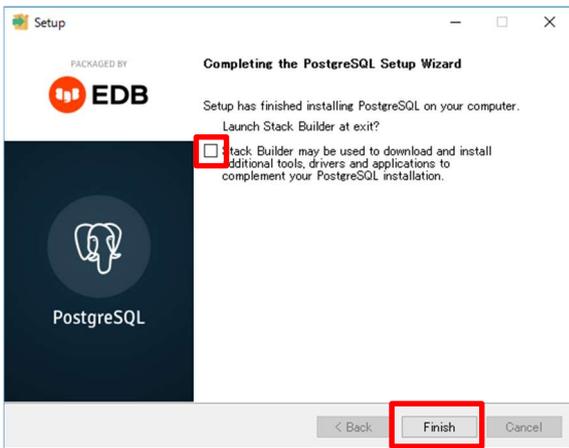
7) [Next]をクリックしてください。



8) [Next]をクリックしてください。



9) [Stack Builder may be used to download...]のチェックを外し、[Finish]をクリックしてください。



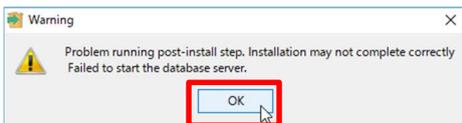
10) コマンドプロンプトのウィンドウに戻り、キーボードの何かキーを押してください。

11) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。

このようなときは...

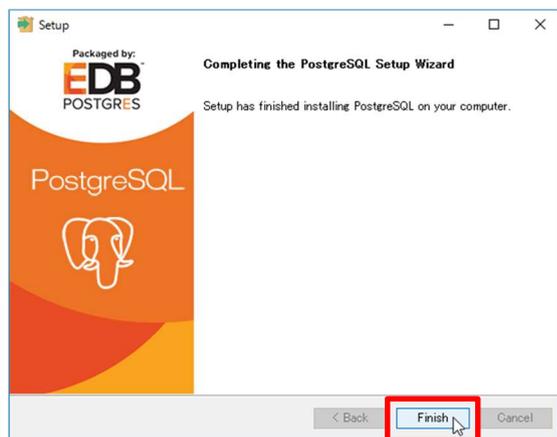
稀に以下のウィンドウが表示されることがあります。これはインストーラーがデータベースの起動に失敗したときに表示されるメッセージですので、ウィザードの流れに従ってください。

[OK]をクリックしてください。



[Finish]をクリックしてください。

(以下の図は一例です)



[YES]をクリックして Windows Server を再起動してください。

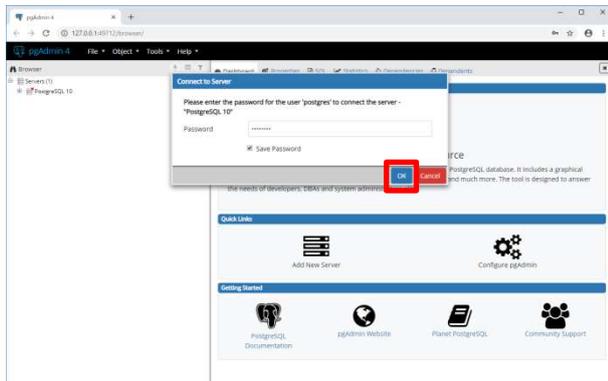
再起動後、以下の確認を続けてください。



以下の項目を確認してください。

① データベースにテーブルが作成されていること

[スタートボタン]-[pgAdmin 4]-[pgAdmin 4 v3]をクリックし、左ペイン[Servers]の[+]をクリックし、[PostgreSQL 10]の[+]をクリックすると、[Connect to Server]画面が表示されてパスワード入力を求められます。Password に「postgres」と入力し、[OK]をクリックしてください。



[Databases]->[FaceAuthenticationDB]->[Schemas]->[public] ->[tables] 以下にテーブルが作成されていることを確認します。(テーブルが存在していること)

2.3.5 DeepFace のインストール

- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを開き[05deepface.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。
- 2) 「続行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。
- 3) バッチが完了すると Windows Server が再起動します。

このバッチ完了後の確認項目はありません。

2.3.6 顔照合サーバーのインストール

- 1) KPAS 管理サーバーの起動が完了していることを確認してください。Windows にログオンし、デスクトップの [Scripts_basicFace] フォルダを開き [06setupFace.bat] を右クリックし、[管理者として実行] をクリックしてください。以下、何かキーを押す以外について記載します。
- 2) 「Administrator の実行者パスワードを入力してください」と表示されたら「Pana0123」と入力し、エンターキーを押してください。3 つのタスクを設定するため 3 回パスワードを入力します。

```
管理者: C:\Windows\System32\cmd.exe
Name                State                Applications
----                -
FaceAuthenticationServer Started
API
Name                : FaceAuthenticationServerAPI
ID                  : 3
State               : Started
PhysicalPath       : C:\Panasonic\FaceAuthenticationServer\WebAPI
Bindings            : Microsoft.IIs.PowerShell.Framework.ConfigurationElement

IPAddress           : 0.0.0.0
Port                : 51443
Host                :
Store               : My
Sites               : Microsoft.IIs.PowerShell.Framework.ConfigurationAttribute

完了しました！
続行するには何かキーを押してください
Administrator の実行者パスワードを入力してください: *****
成功: スケジュール タスク "顔照合サーバ起動" (は正しく作成されました。
Administrator の実行者パスワードを入力してください: *****
成功: スケジュール タスク "顔照合サーバ死活監視" (は正しく作成されました。
Administrator の実行者パスワードを入力してください: *****
```

- 3) バッチが完了すると Windows Server が再起動します。

OS 起動後、10 分から 15 分経過したら以下の項目を確認してください。

① 顔照合サーバーが正常に起動していること

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥log¥debug.log に以下の記載があることを確認します。

「INFO Main - 顔照合サーバー起動完了(顔情報同期処理待ち):(0)」

② 顔照合サーバー起動時にエラーが発生しないこと

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥log¥error.log に何も出力されていないことを確認します。

2.4 動作確認

顔照合サーバーおよび KPAS 管理サーバーのインストールが正常に行われていることを確認するため、動作確認内容は、KPAS 管理サーバーと同じです。

必ず顔照合サーバー、KPAS 管理サーバーが起動している状態で確認してください。

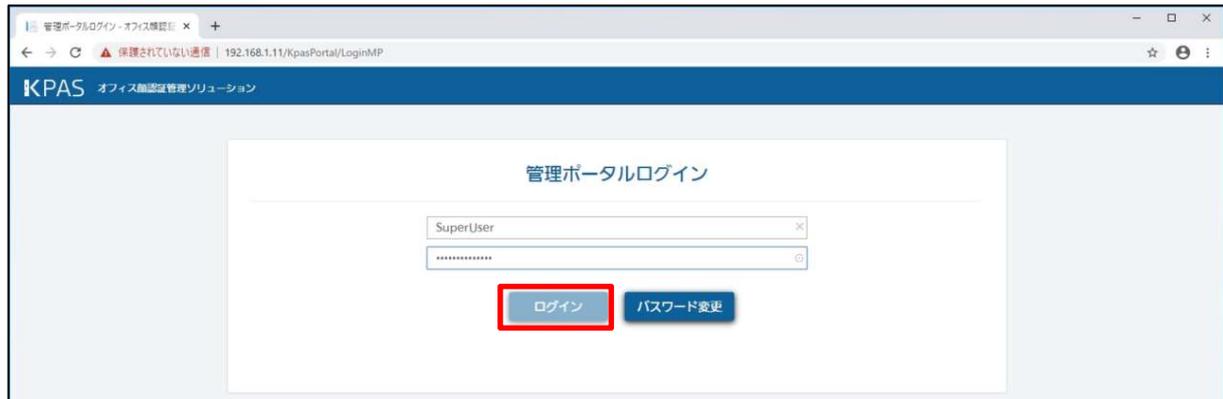
2.4.1 管理ポータルログイン確認

管理ポータルに接続し、ログイン画面から管理ポータルにログインができることを確認してください。

- 1) Google Chrome を起動し、以下の URL にアクセスします。管理ポータルログイン画面が表示されます。

「https://192.168.1.11/KPASPortal/LoginMP」

- 2) 管理ポータルにログインします。(ログイン ID:SuperUser 、パスワード(初期パスワード):SuperUser12345)

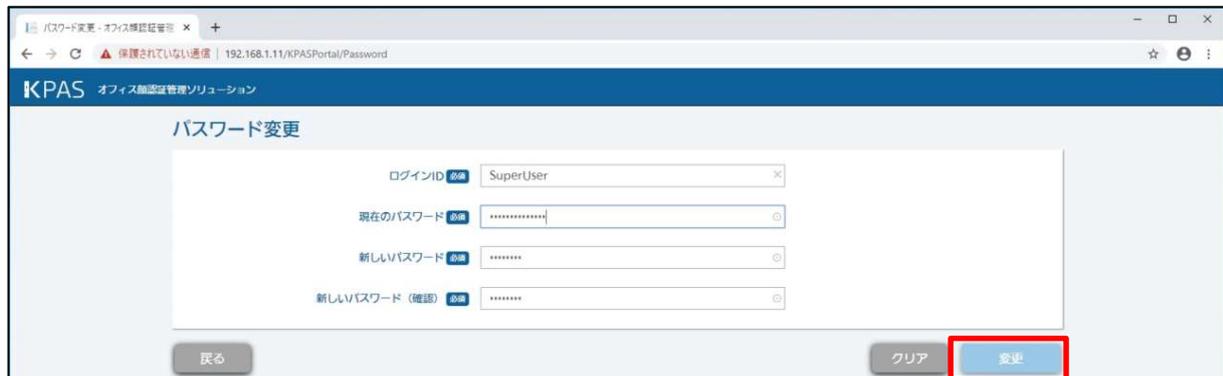


- 3) 「パスワードが初期設定のままです。パスワードを変更してください」と表示されますので、[パスワード変更]をクリックします。



- 4) 管理ポータルのパスワード変更画面で新しいパスワードを入力して[変更]をクリックします。

(変更するパスワードは件名にて決めてください)



5) 変更確認のポップアップが表示されますので[OK]をクリックします。



6) 「パスワード変更が完了しました。」と表示されますので[OK]をクリックします。



7) 新しいパスワードで、再度ログインを実施してください。管理ポータル画面が表示されます。

2.4.2 顔登録の確認

レジスターまたは管理ポータルから顔登録(または更新)を行い、正常に登録(または更新)が完了することを確認してください。

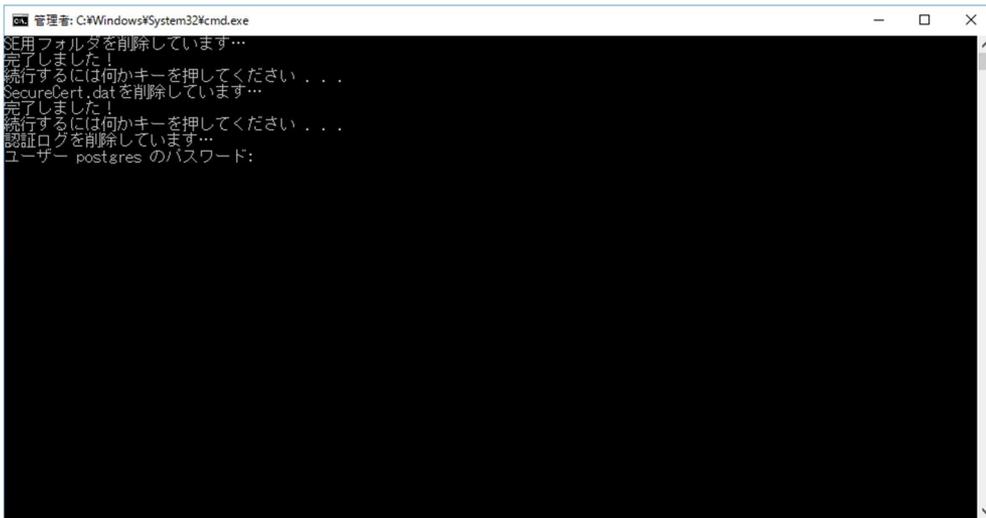
2.4.3 顔認証の確認

チェッカーから KPAS に登録されている被認証者の認証を行い、認証 OK となることを確認してください。

※登録したデジタル名刺は動作確認が完了したら削除してください。

2.5 不要ファイルの削除

- 1) Windows にログオンし、デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを開き[07delete.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。
- 2) 「ユーザー postgres のパスワード:」と表示されたら「postgres」と入力し、エンターキーを押してください。



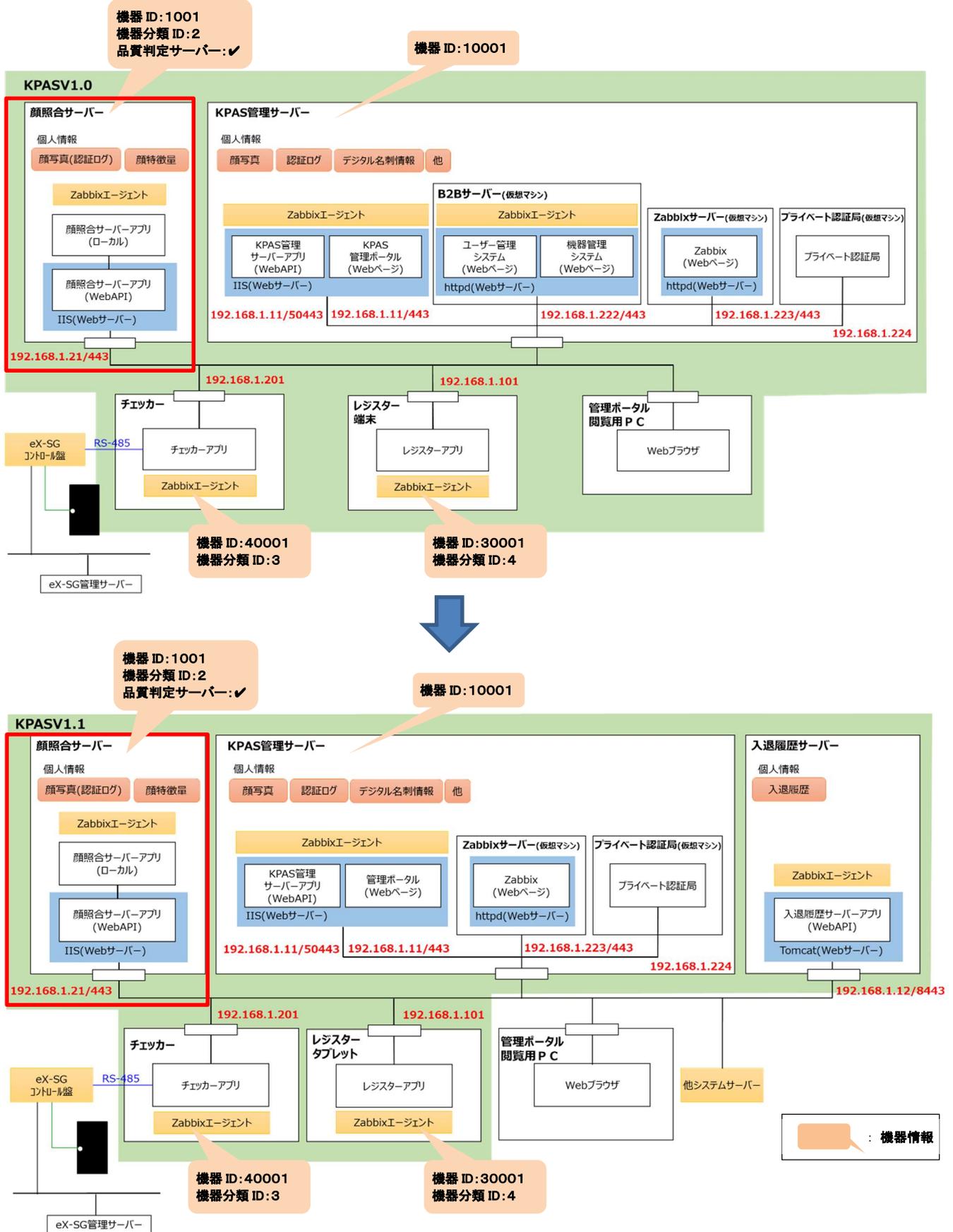
- 3) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。
- 4) デスクトップの[Scripts_basicFace]フォルダーを削除してください。

※「07delete.bat」を実行すると C:\¥SE 用フォルダーの削除、SecureCert.dat ファイルの削除、認証ログの削除が行われます。バッチ実行後はプライベート認証局を構築し、SSL 証明書を発行・設定する必要があります。手順は別冊「機器説明書 KPAS システム 設定編」を参照してください。

3. ベーシックモデル 顔照合サーバー バージョンアップ手順

本書は、ベーシックモデルの顔照合サーバーのソフトウェア KPASv1.0 を KPASv1.1 へバージョンアップするための手順を説明するドキュメントです。機器構成はデフォルト設定として以下の図のように設定していく前提で説明を行います。

※設定変更を行う場合は、別冊「機器説明書 KPAS システム 設定編」を参照してください。



バージョンアップ作業中の注意事項

バージョンアップ作業中は、KPAS 管理サーバー、顔照合サーバーが停止しますので、レジスターからの顔登録、チェッカーによる顔認証および管理ポータルへのアクセスは行わないでください。

KPAS 管理サーバー、顔照合サーバーが停止中の各機器の動作は以下となります。

- ・レジスター、チェッカー: メンテナンス中が表示されます。
- ・管理ポータル: アクセスまたは画面を更新した場合、「このサイトにアクセスできません」が表示されます。

※KPAS 管理サーバーが停止している場合のみ

バージョンアップが完了し、KPAS 管理サーバーおよび顔照合サーバーが正常に起動すると、レジスターおよびチェッカーは自動的に待機画面に戻ります。

また、管理ポータルもアクセス可能となります。エラー画面が表示されている場合は、画面更新または再アクセスによりログイン画面へ遷移します。

3.1 事前準備

- バージョンアップ作業前に以下の準備を行ってください。
 - 1) 以下の操作を行い、KPAS 管理サーバーと接続していない状態にしてください。
 - ・顔照合サーバーをネットワークから切断(LAN ケーブルを抜く)
 - ・KPAS 管理サーバーをシャットダウン
 - 2) バージョンアップメディア¥SE 用フォルダーを C:¥にコピーしてください。
 - 3) C:¥SE 用¥Scripts¥ Scripts_basicFace_versionUp フォルダーをデスクトップにコピーしてください。

※複数の顔照合サーバーを接続している場合、品質チェック用の顔照合サーバーは必ず KPAS 管理サーバーの前にバージョンアップしてください。それ以外の顔照合サーバーは別のタイミングでも問題ありません。

3.1.1 NVIDIA の GPU ドライバーバージョン確認

使用する NVIDIA の GPU ドライバーは 441.22 以上(CUDA 10.2 以上)が必要になりますので、以下の手順でバージョン確認と必要によってはバージョンアップを行ってください。

詳細は NVIDIA ホームページ(<https://www.nvidia.co.jp/Download/index.aspx?lang=jp>)をご確認ください。

① デスクトップ画面で右クリックし、[NVIDIA コントロール パネル]をクリックします



② NVIDIA コントロール パネルの[ヘルプ]-[システム情報]をクリックします



③ システム情報の[コンポーネント]をクリックし、ファイル名「NVCUDA64.DLL」を確認してください



・GPU ドライバーのバージョン

ファイルバージョンの末尾から 5 桁を取って、下 2 桁が小数点以下の表示になります。

例: 27.21.14.6109 → 461.09

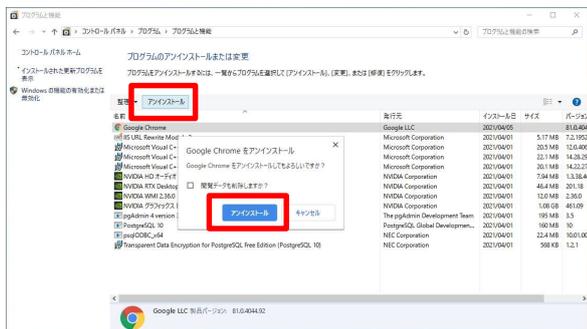
・CUDA のバージョン

製品名の先頭から 3 桁を取って、そのままの表示になります。

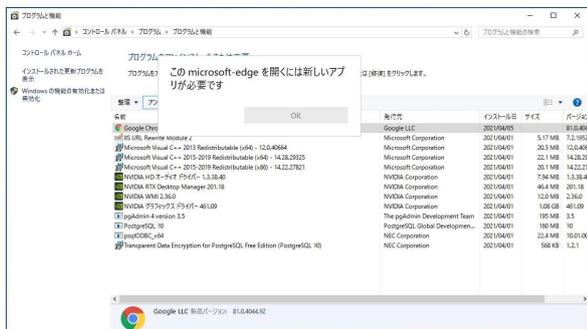
例: 11.2.109 → 11.2

3.1.2 Google Chrome のバージョンアップ

- 1) 既にインストールされている Google Chrome のアンインストールをしてください。
[スタートボタン]- [Windows システムツール]-[コントロールパネル]-[プログラムのアンインストール]-
[Google Chrome]を選択し、[アンインストール]をクリックします。
- 2) ポップアップが表示されるので[アンインストール]をクリックします。



- 3) 以下のポップアップが表示されますが、何もしないで Google Chrome がアンインストールされるまで待ちます。



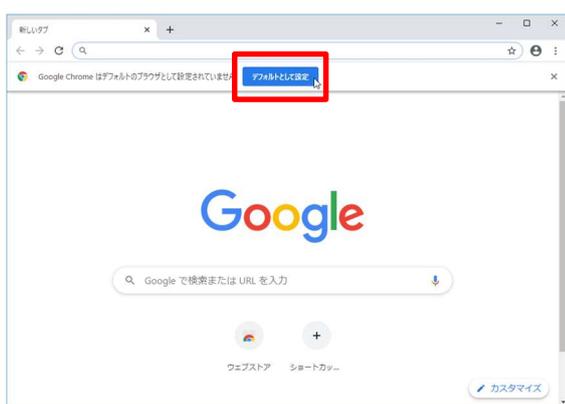
- 4) インストーラーを実行して Google Chrome のインストールを行ってください。

Google Chrome インストーラーのダウンロード先は以下を参照してください。

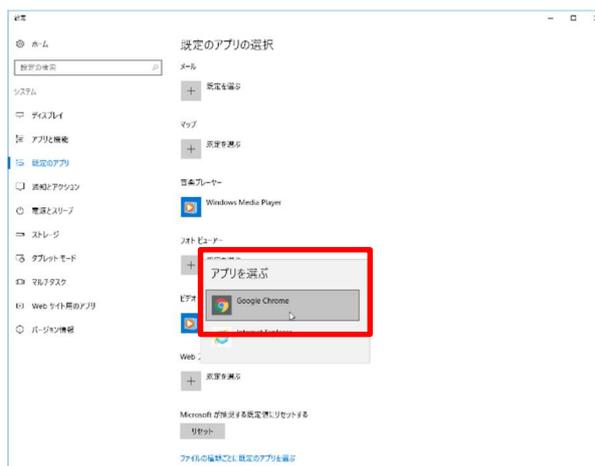
<https://www.google.com/intl/ja/chrome/?standalone=1>

※動作確認済み Google Chrome バージョン:91.0.4472.114 (Official Bulid) (64 ビット)

Google Chrome 初回起動画面



Windows 設定画面



● バージョンアップの流れ

バージョンアップは手動手順と各バッチを順番に実行することで顔照合サーバーの再構築が完了します。

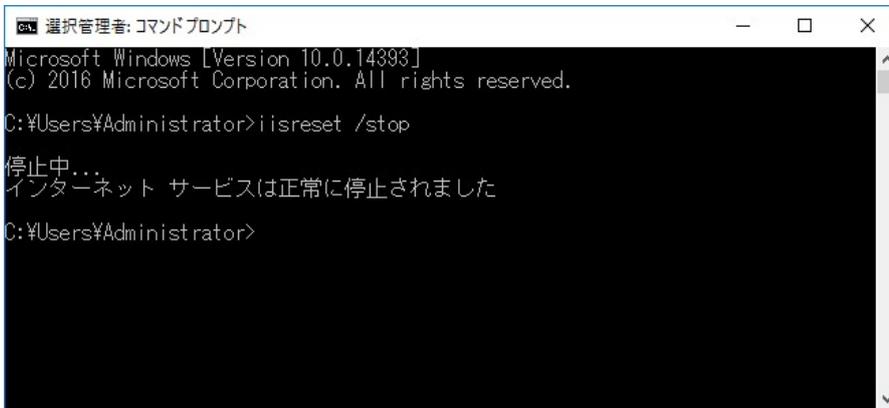
| 項目 | 概要 | 実行するバッチファイル |
|---|--|--|
| 1. プロセスの停止 | IIS 停止、顔照合サーバーのプロセス停止 | なし |
| ↓ | | |
| 2. 各種データのバックアップ | DeepFace、顔照合サーバーアプリケーション、顔照合サーバーDB のバックアップ ※顔照合サーバーDB のバックアップ実施は、件名にて判断 | 顔照合サーバーDB のバックアップをする場合は、以下のバッチを使用してください 00_DbBackup.bat |
| ↓ | | |
| 3. 顔照合サーバーアプリケーションのバージョンアップ | 顔照合サーバーのインストール | 01setupFace.bat |
| ↓ | | |
| 4. 顔照合サーバーの設定ファイル移行 | 設定値を変更して運用している場合は、設定値を変更する ※設定変更の可否は件名で判断 | なし |
| ↓ | | |
| 5. PostgreSQL のバージョンアップ | PostgreSQL のバージョンアップ | 02setTable_verup.bat |
| ↓ | | |
| 6. DeepFace のバージョンアップ | DeepFace のバージョンアップ | 03deepface.bat |
| ↓ | | |
| 7. DeepFace の設定ファイル移行 | DeepFace の設定ファイル移行 | なし |
| ↓ | | |
| 8. 顔照合サーバーの特徴量の同期 | 顔照合サーバーのキャッシュファイル削除、顔照合サーバーの有効化 | なし |
| ↓ | | |
| KPAS 管理サーバー、チェッカーやレジスターを接続し、登録や認証の動作確認を実施する | | |
| ↓ | | |
| 9. 不要ファイルの削除 | バージョンアップ用に保存したフォルダー削除、SecureCert.dat 削除 | 04delete.bat |

3.2 プロセスの停止

以下の手順に従い、IIS と顔照合サーバーのプロセス停止を行ってください。

3.2.1 IIS の停止

- 1) [スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コマンドプロンプト]を右クリックし、[その他]-[管理者として実行]をクリックします。コマンドプロンプトにて「iisreset /stop」を実行し、IIS を停止します。

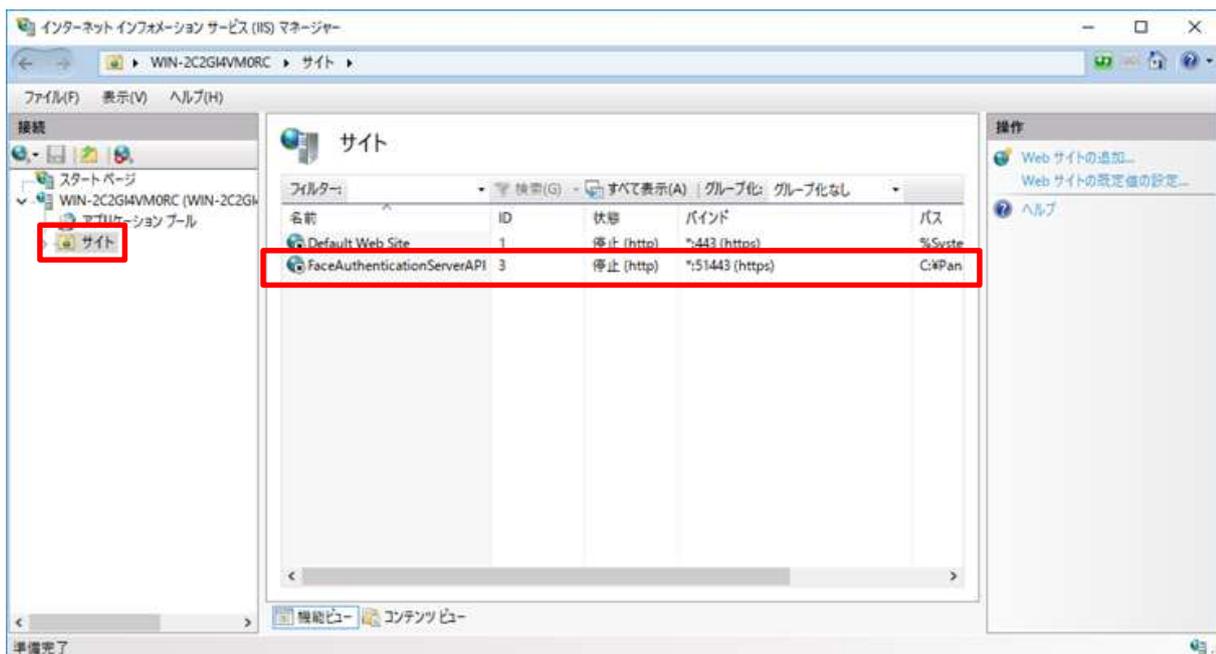


```
選択管理者: コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.
C:\Users\Administrator>iisreset /stop

停止中...
インターネット サービスは正常に停止されました
C:\Users\Administrator>
```

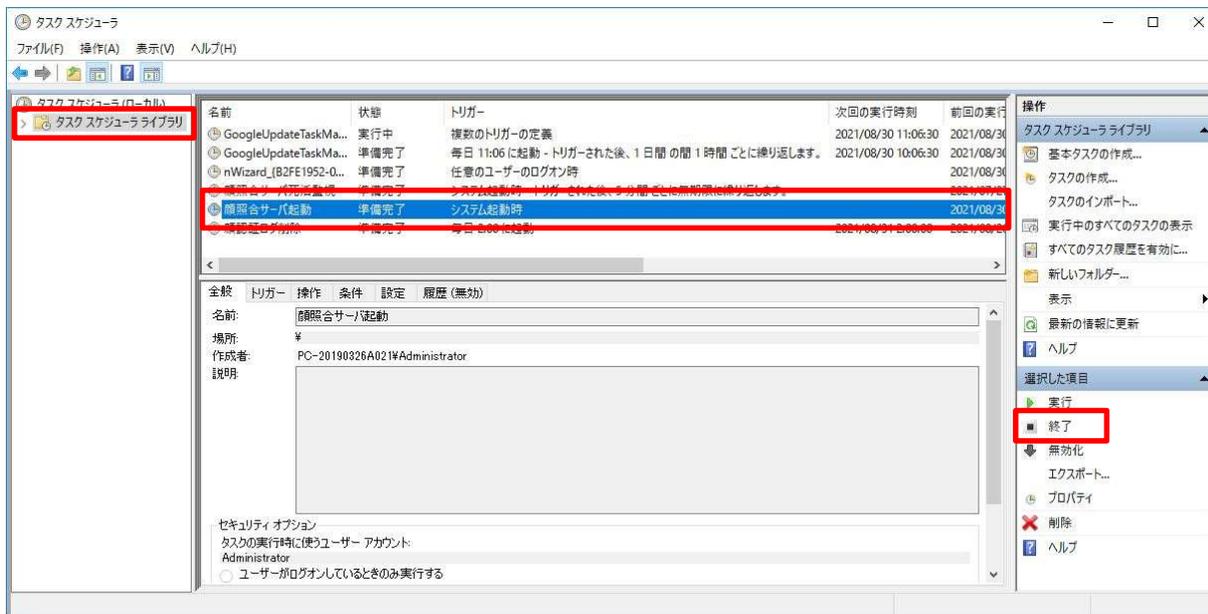
- 2) [スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]を開きます。左側の接続メニューから[コンピューター名]-[サイト]をクリックします。中央のフォームで以下の Web サイトが停止していることを確認します。

FaceAuthenticationServerAPI

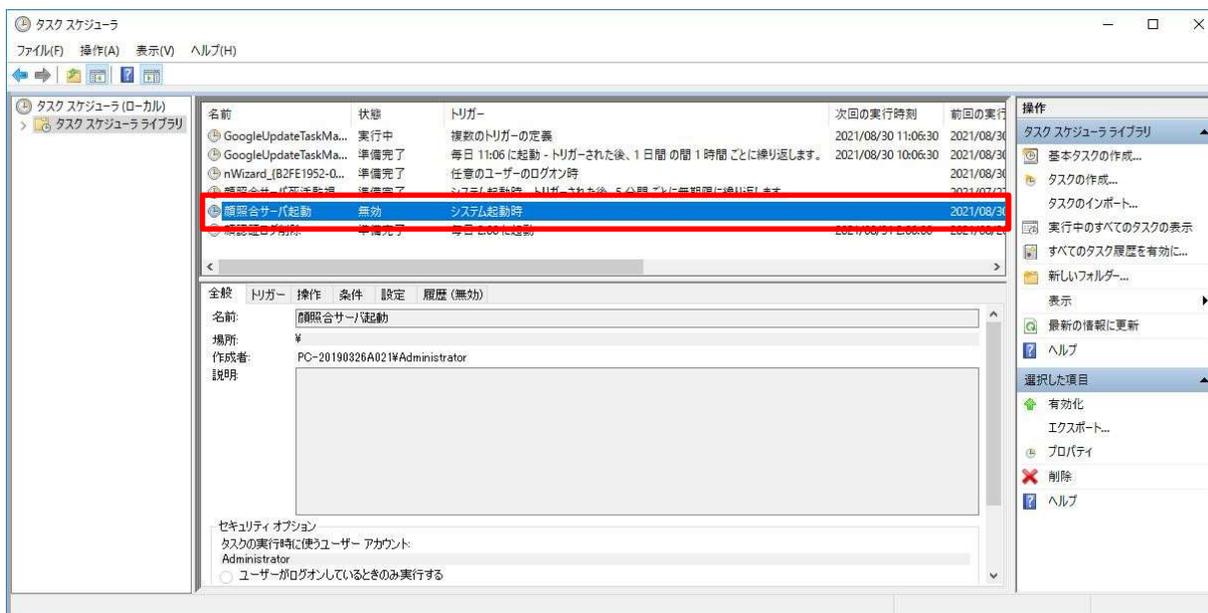


3.2.2 顔照合サーバーのプロセス停止

- 1) [スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[タスクスケジューラ]をクリックし、タスクスケジューラを起動します。左側のメニューで[タスクスケジューラライブラリ]をクリックし、中央のフォームから[顔照合サーバ起動]をクリックします。「顔照合サーバ起動」が選択された状態で、右側の操作メニューの[終了]をクリックし、ポップアップで[はい]をクリックします。中央のフォームの状態が「準備完了」になっていることを確認します。



- 2) 続けて、右側の操作メニューの[無効化]をクリックします。中央フォームの「顔照合サーバ起動」の状態が「無効」になっていることを確認します。



3.3 各種データのバックアップ

以下の手順に従い、各種データのバックアップを行ってください。

3.3.3 DeepFace のバックアップ

C:\¥Panasonic 直下の DeepFace フォルダのフォルダ名を「DeepFace_bak」に変更してください。

3.3.4 顔照合サーバーアプリケーションのバックアップ

C:\¥Panasonic 直下の FaceAuthenticationServer フォルダのフォルダ名を「FaceAuthenticationServer_bak」に変更してください。

3.3.5 顔照合サーバーDB のバックアップ

- 顔照合サーバーDB のバックアップは、認証画像を含む約 38 万件で 3.5 時間かかるため、件名にて実施するか判断してください。
 - 1) デスクトップの[Scripts_basicFace_versionUp]フォルダを開き[00_DbBackup.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。
 - 2) 「続行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。
 - 3) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。

バックアップが成功した場合

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer_bak¥DbBackup¥YYYYMMDD フォルダに「Dump_ManageServer」ファイルが出力されます。

3.4 バージョンアップバッチの基本的な進め方

- ・バッチは「管理者として実行」してください。
- ・「実行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。
- ・バッチ実行中に赤字でメッセージが表示された場合、処理が正常に完了していない可能性があります。以下の例では「顔照合サーバーをインストールしています...」の処理でエラーが出ているため、SE用フォルダーの存在を見直す必要があります。

```
管理者: C:\Windows\System32\cmd.exe
顔照合サーバーをインストールしています...
expand-archive : パス 'C:\SE用\FaceAuthenticationServer_Basic_versionUp\FaceAuthenticationServer.zip' が存在しないか、
または有効なファイル システム パスではありません。
発生場所 C:\Users\Administrator\Desktop\Scripts_basicFace_versionUp\InstallFace.ps1:1 文字:1
+ expand-archive -Path C:\SE用\FaceAuthenticationServer_Basic_versionUp\ ...
+ ~~~~~
+ CategoryInfo          : InvalidArgument: (C:\SE用\FaceAuth...ationServer.zip:String) [Expand-Archive], InvalidOper
ationException
+ FullyQualifiedErrorId : ArchiveCmdletPathNotFound,Expand-Archive

Copy-Item : パス 'C:\SE用\FaceAuthenticationServer_Basic_versionUp\SecureCert\SecureCert.dat' が存在しないため検出でき
ません。
発生場所 C:\Users\Administrator\Desktop\Scripts_basicFace_versionUp\InstallFace.ps1:3 文字:1
+ Copy-Item C:\SE用\FaceAuthenticationServer_Basic_versionUp\SecureCert\ ...
+ ~~~~~
+ CategoryInfo          : ObjectNotFound: (C:\SE用\FaceAuth...SecureCert.dat:String) [Copy-Item], ItemNotFoundExce
ption
+ FullyQualifiedErrorId : PathNotFound,Microsoft.PowerShell.Commands.CopyItemCommand

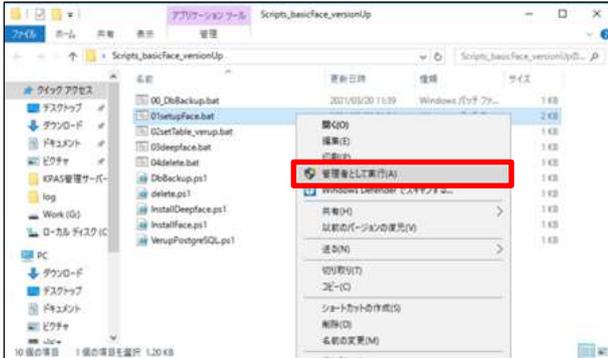
完了しました!
続行するには何かキーを押してください . . .
```

3.5 顔照合サーバーアプリケーションのバージョンアップ

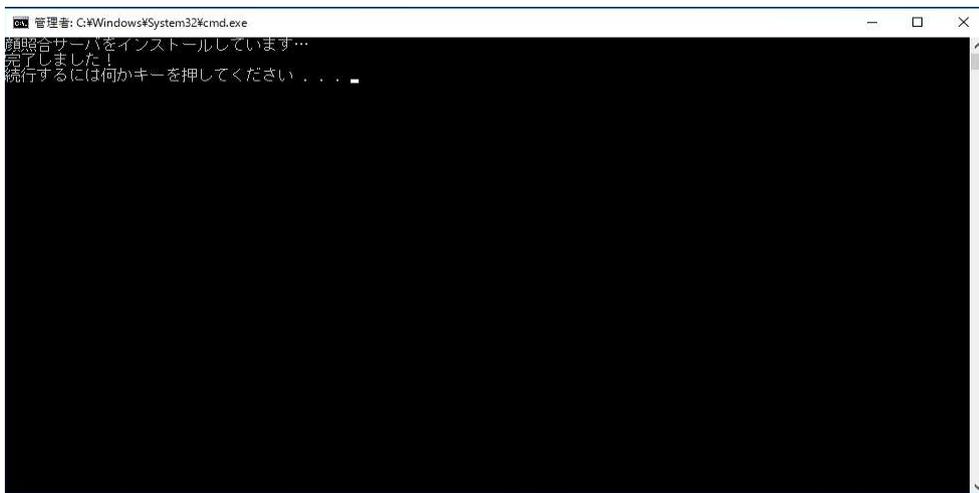
以下の手順に従い、バージョンアップバッチを実行してください。

3.5.1 顔照合サーバーアプリケーションバージョンアップバッチの実行

- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace_versionUp]フォルダーを開き[01setupFace.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。



- 2) 「続行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。



- 3) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。
- 4) Firewall に下記のルールが設定されていることを確認してください。
[スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コントロールパネル]をクリックし、[システムとセキュリティ]-[Windows ファイアウォール]をクリックし、左ペインより[詳細設定]をクリックしてください。[受信の規則]でルールが作成されていることを確認します。

受信規則:RPC 受信拒否

受信規則:NetBIOS UDP 受信拒否

受信規則:NetBIOS 受信拒否

受信規則:SMB 受信拒否

受信規則:PostgreSQL 受信拒否

受信規則:Windows リモート管理 (HTTP 受信拒否)

受信規則:タスク スケジューラとスプーラ 受信拒否

受信規則:TCP 9668 受信拒否

受信規則:TCP 49680 受信拒否

受信規則:TCP 49690 受信拒否

3.5.2 顔照合サーバー設定ファイルの移行

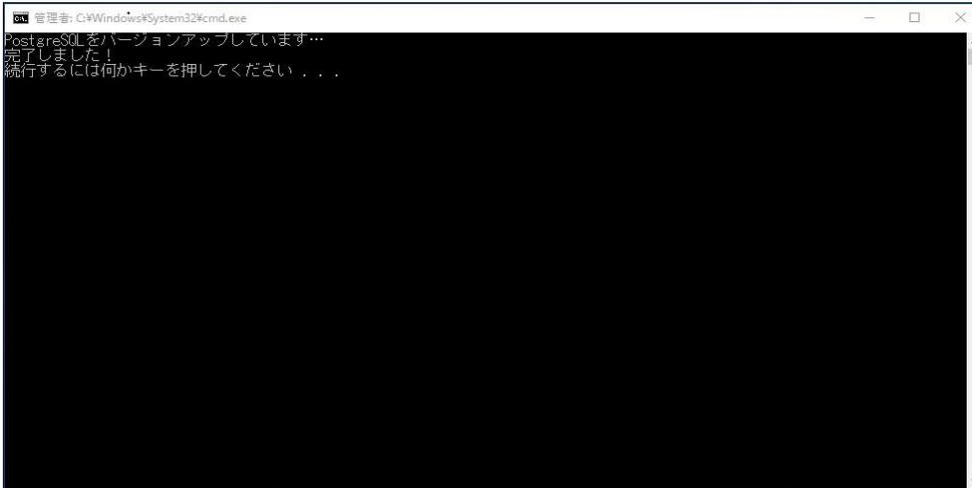
顔照合サーバーアプリケーションのバージョンアップが実施されますと、各種設定が KPASv1.1 の規定値に変更されるため、KPASv1.0 で各種設定を個別に変更して運用されていた場合は、

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication 直下の各設定ファイルを変更してください。

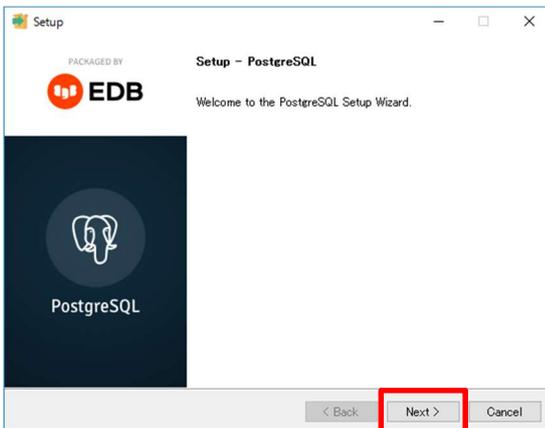
※設定変更の可否は件名で判断してください。

3.6 PostgreSQL のバージョンアップ

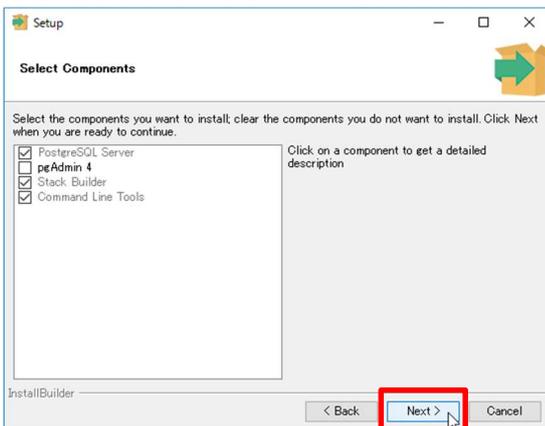
- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace_Verup]フォルダーを開き[02setTable_verup.bat]を右クリックし、「管理者として実行」をクリックしてください。
- 2) PostgreSQL のバージョンアップで「完了しました！ 続行するには何かキーを押してください. . . 」と表示されますが、数秒後に PostgreSQL のインストールウィザードが立ち上がります。



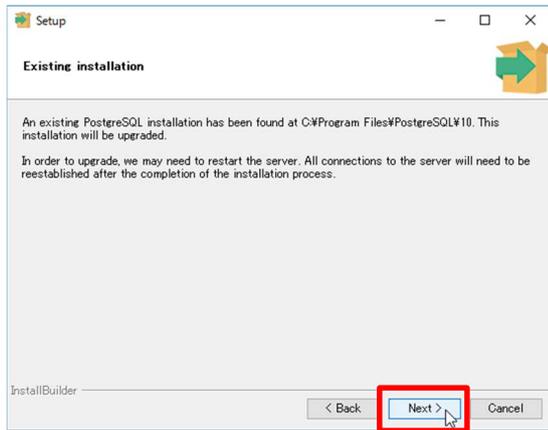
- 3) ウィザードの[Next]をクリックしてください。



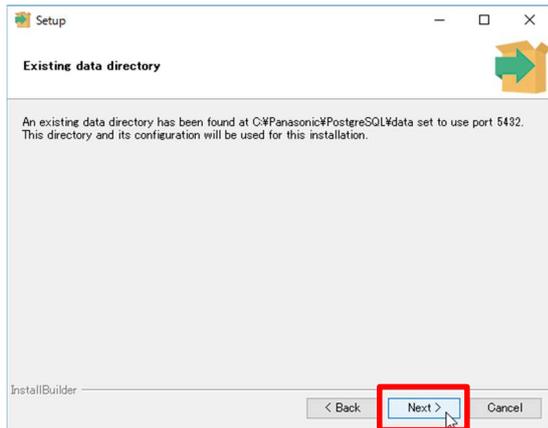
- 4) 何も変更せずそのまま[Next]をクリックしてください。



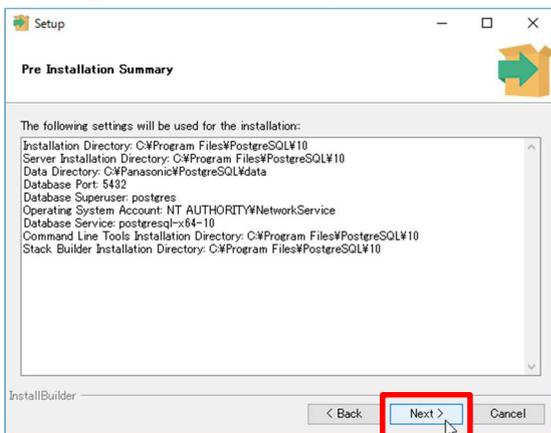
5) [Next]をクリックしてください。



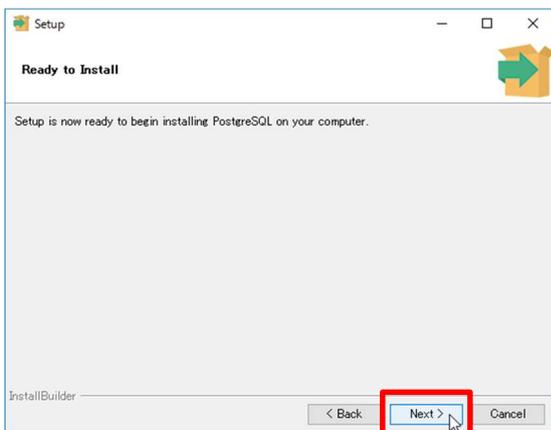
6) [Next]をクリックしてください。



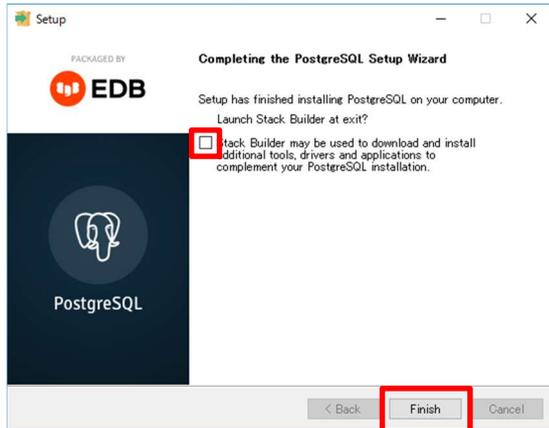
7) [Next]をクリックしてください。



8) [Next]をクリックしてください。



9) [Stack Builder may be used to download. . .]のチェックを外し、[Finish]をクリックしてください。



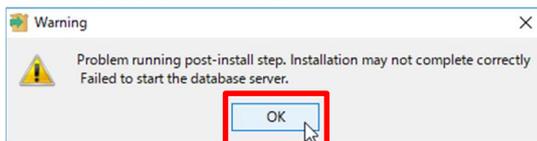
10) コマンドプロンプトのウィンドウに戻り、キーボードの何かキーを押してください。

11) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。

このようなときは...

稀に以下のウィンドウが表示されることがあります。これはインストーラーがデータベースの起動に失敗したときに表示されるメッセージですので、ウィザードの流れに従ってください。

[OK]をクリックしてください。



[Finish]をクリックしてください。

(以下の図は一例です)



[YES]をクリックして Windows Server 2016 および Windows Server 2019(以下、「Windows Server」という)を再起動してください。



3.7 DeepFace のバージョンアップ

以下の手順に従い、バージョンアップバッチを実行してください。

3.7.1 DeepFace バージョンアップバッチを実行

- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace_versionUp]フォルダーを開き[03deepface.bat]を右クリックし、「管理者として実行」をクリックしてください。
- 2) 「続行するには何かキーを押してください...」と表示されたらキーボードの何かキーを押してください。
- 3) バッチが完了すると Windows Server が再起動します。

このバッチ完了後の確認項目はありません。

3.7.2 DeepFace の設定ファイル移行

- 1) 顔照合サーバーの DEEPFACE.INI の設定を変更している場合、変更した内容を確認し、
C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥DEEPFACE.INI を変更してください。

※バージョンアップを実施すると、設定はすべて KPASv1.1 規定値に変更されます。

3.8 顔照合サーバーの特徴量の同期

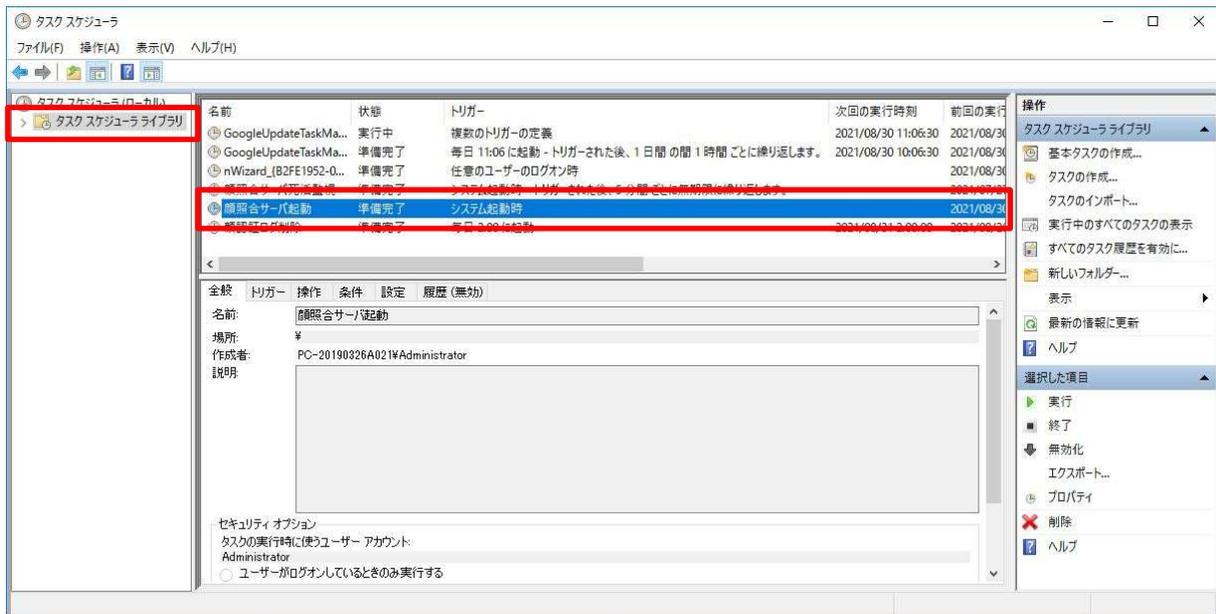
以下の手順に従い、顔照合サーバーのキャッシュファイルの削除を実行してください。

3.8.1 顔照合サーバーのキャッシュファイルの削除

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥cache 直下に保存されているキャッシュファイル(xx.cache)をすべて削除してください。

3.8.2 顔照合サーバーの有効化

- 1) [スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[タスクスケジューラ]をクリックし、タスクスケジューラを起動します。左側のメニューで[タスクスケジューラライブラリ]をクリックし、中央のフォームから[顔照合サーバ起動]をクリックします。「顔照合サーバ起動」が選択された状態で、右側の操作メニューの[有効化]をクリックします。中央フォームの「顔照合サーバ起動」の状態が「準備完了」になっていることを確認します。



- 2) 確認後、顔照合サーバーをシャットダウンしてください。LAN ケーブルを抜いている場合は挿入してください。

3.9 PC の起動

以下の手順に従い、KPAS 管理サーバー、顔照合サーバーを起動させてください。

3.9.1 KPAS 管理サーバーの接続と起動

- 1) KPAS 管理サーバーをネットワークに接続(LAN ケーブルを挿す)してください。
- 2) KPAS 管理サーバーを起動(電源 ON)してください。

(KPAS 管理サーバーは v1.1 にバージョンアップされていること)

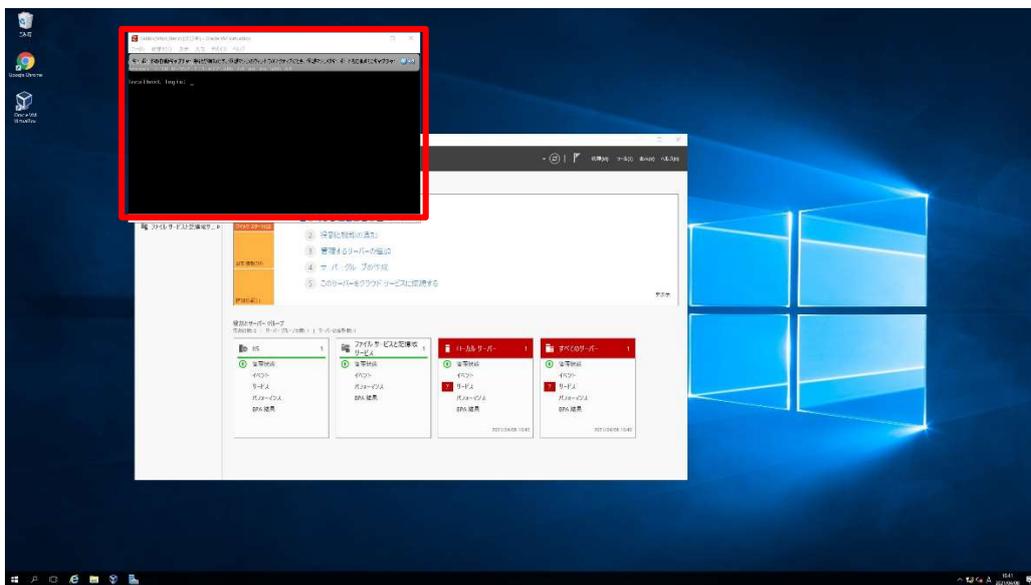
- 3) 起動後、KPAS 管理サーバーの起動確認を行ってください。

以下の 2 点が確認できれば KPAS 管理サーバーの起動が完了しています。

起動完了までには 5 分程度かかります。

以下の項目を確認してください。

- ① Oracle VM VirtualBox と記載されたウィンドウが立ち上がっていること



- ② KPAS 管理サーバーが正常に動作していること

C:\¥Panasonic¥KpasManagementServer¥WebAPI¥log¥trace.log の末尾に、起動以降の時刻で「INFO FaceManage.StartupProc - 管理サーバー起動完了」というメッセージが出力されていることを確認します。

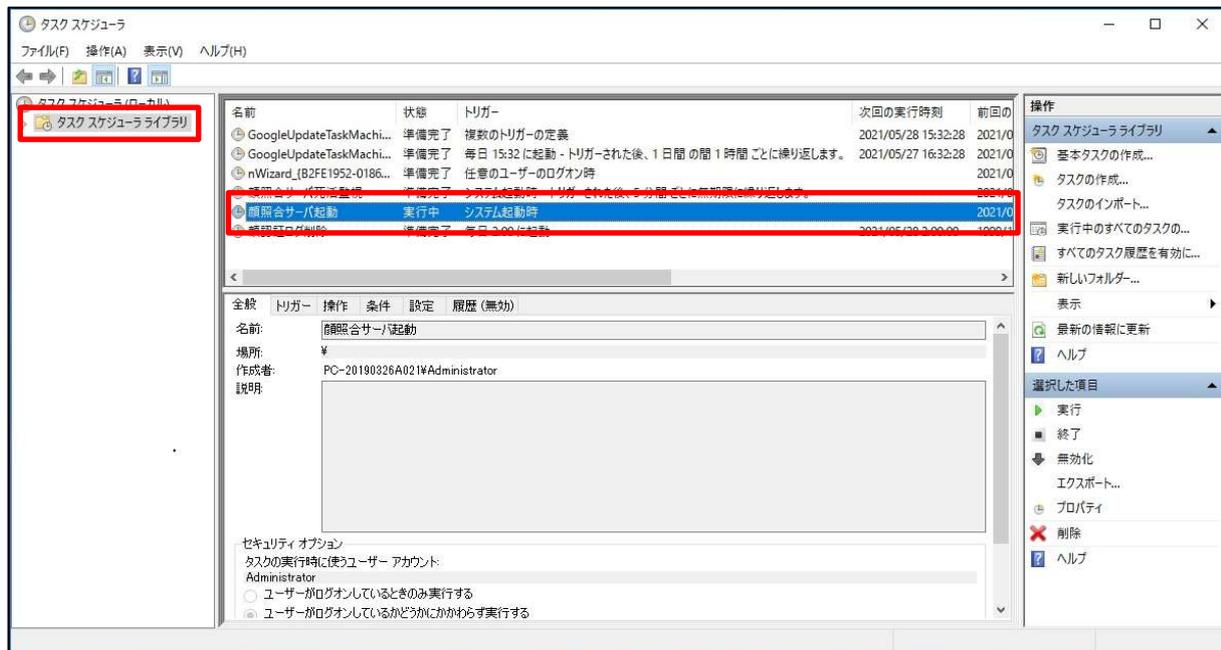
3.9.2 顔照合サーバーの起動と確認

KPAS 管理サーバーが起動している状態で、以下の起動方法と確認を実施してください。

- 1) 顔照合サーバーを起動(電源 ON)してください。
- 2) OS 起動後、10 分から 15 分経過したら以下の項目を確認してください。

① 顔照合サーバーの起動状態確認

[スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[タスクスケジューラ]をクリックし、タスクスケジューラを起動します。
左側のメニューで[タスクスケジューラライブラリ]をクリックし、中央のフォームから「顔照合サーバ起動」の状態が「実行中」になっていることを確認します。



② 顔照合サーバーが正常に起動していること

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥log¥debug.log に以下の記載があることを確認します。

「INFO Main - 顔照合サーバー起動完了(顔情報同期処理待ち):(0)」

③ 顔照合サーバー起動時にエラーが発生していないこと

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥log¥error.log に何も出力されていないことを確認します。

④ KPAS 管理サーバーが正常に起動していること

C:\¥Panasonic¥KpasManagementServer¥WebAPI¥log¥trace.log に以下の記載があることを確認します。

「INFO FaceManage.Controll.ServerStartupController -

顔情報同期処理完了 (機器 ID:1001 IP アドレス:::1)」

※1001 は、起動した顔照合サーバーにより異なります。

- 3) 顔照合サーバーおよび KPAS 管理サーバーの起動確認後、「3.10 動作確認」の確認を行ってください。

3.10 動作確認

顔照合サーバーおよび KPAS 管理サーバーのバージョンアップが正常に行われていることを確認するため、動作確認内容は、KPAS 管理サーバーと同じです。

必ず顔照合サーバー、KPAS 管理サーバーが起動している状態で確認してください。

※動作確認は、KPAS 管理サーバーのバージョンアップも完了してから実施してください。

顔照合サーバーと KPAS 管理サーバーのバージョンが異なっていると動作確認できません。

3.10.1 管理ポータルログイン確認

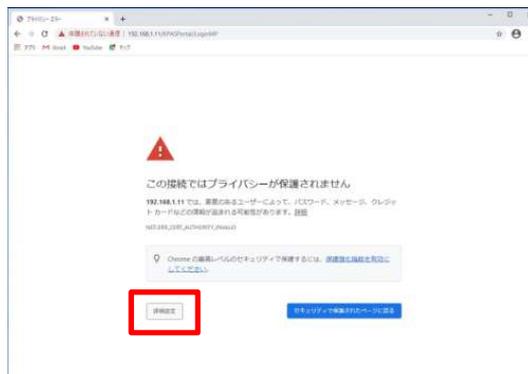
管理ポータルに接続し、ログイン画面から管理ポータルにログインができることを確認してください。

1) Google Chrome を起動し、以下の URL にアクセスします。管理ポータルログイン画面が表示されます。

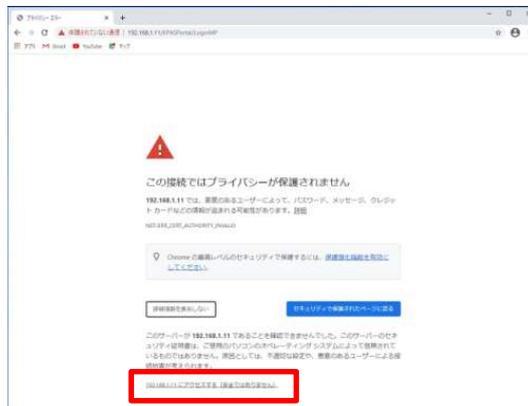
「<https://192.168.1.11/KPASPortal/LoginMP>」

※SSL 証明書が自己証明書であるため、アクセス時に以下のセキュリティ警告が表示されます。

[詳細設定]をクリックします。



[192.168.1.11 にアクセスする(安全ではありません)]をクリックします。



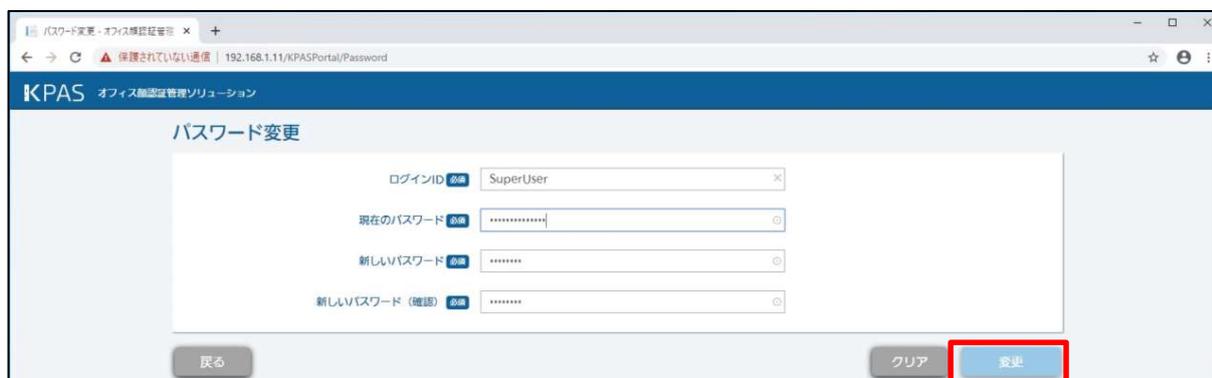
2) 管理ポータルにログインします。(ログイン ID:SuperUser 、パスワード(初期パスワード):SuperUser12345)



- 3) 「パスワードが初期設定のままです。パスワードを変更してください」と表示されますので、[パスワード変更]をクリックします。



- 4) 管理ポータルのパスワード変更画面で新しいパスワードを入力して[変更]をクリックします。
(変更するパスワードは件名にて決めてください)



- 5) 変更確認のポップアップが表示されますので[OK]をクリックします。



- 6) 「パスワード変更が完了しました。」と表示されますので[OK]をクリックします。



- 7) 新しいパスワードで、再度ログインを実施してください。管理ポータル画面が表示されます。

3.10.2 顔登録の確認

レジスターまたは管理ポータルから顔登録(または更新)を行い、正常に登録(または更新)が完了することを確認してください。

3.10.3 顔認証の確認

チェッカーから KPAS に登録されている被認証者の認証を行い、認証 OK となることを確認してください。

※登録したデジタル名刺は動作確認が完了したら削除してください。

3.11 不要ファイルの削除

以下の手順に従い、フォルダー削除バッチを実行してください。

- 1) デスクトップの[Scripts_basicFace_versionUp]フォルダーを開き[04delete.bat]を右クリックし、[管理者として実行]をクリックしてください。
- 2) バッチが完了するとコマンドプロンプトのウィンドウが閉じます。
- 3) デスクトップの[Scripts_basicFace_versionUp]フォルダーを削除してください。

※「04delete.bat」を実行すると C:\¥SE 用フォルダーの削除、SecureCert.dat ファイルの削除が行われます。
バージョンアップ過程で作成した一時フォルダーの削除タイミングは、件名にて判断してください。

4. ベーシックモデル 顔照合サーバー 切り戻し手順

本章は、ベーシックモデルの顔照合サーバーのソフトウェア KPASv1.1 を KPASv1.0 へ切り戻しするための手順を説明するドキュメントです。

● 切り戻し作業中の注意事項

切り戻し作業中は、KPAS 管理サーバー、顔照合サーバーが停止しますので、レジスターからの顔登録、チェッカーによる顔認証および管理ポータルへのアクセスは行わないでください。

KPAS 管理サーバー、顔照合サーバーが停止中の各機器の動作は以下となります。

- ・レジスター、チェッカー：メンテナンス中が表示されます。
- ・管理ポータル：アクセスまたは画面を更新した場合、「このサイトにアクセスできません」が表示されます。

※KPAS 管理サーバーが停止している場合のみ

切り戻し作業が完了し、KPAS 管理サーバーおよび顔照合サーバーが正常に起動すると、レジスターおよびチェッカーは自動的に待機画面に戻ります。

また、管理ポータルもアクセス可能となります。エラー画面が表示されている場合は、画面更新または再アクセスによりログイン画面へ遷移します。

4.1 事前準備

● 切り戻し作業前に以下の準備を行ってください。

・以下の操作を行い、KPAS 管理サーバーと接続していない状態にしてください

- 1) 顔照合サーバーをネットワークから切断(LAN ケーブルを抜く)
- 2) KPAS 管理サーバーをシャットダウン
- 3) バックアップフォルダー確認

・DeepFace のバックアップ: C:\¥Panasonic¥DeepFace_bak

・顔認証サーバーアプリケーションのバックアップ: C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer_bak

・顔認証サーバーDB のバックアップ: C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer_bak¥DbBackup

※顔認証サーバーDB のバックアップは、件名によっては無い場合があります。

複数の顔照合サーバーを接続している場合、品質チェック用の顔照合サーバーは必ず KPAS 管理サーバーの前に切り戻してください。それ以外の顔照合サーバーは別のタイミングでも問題ありません。

● 切り戻しの流れ

切り戻しは手動手順を順番に実行することで顔照合サーバーの再構築が完了します。

| 項目 | 概要 | 実行するバッチファイル |
|-------------------|---------------------------------|-------------|
| 1. プロセスの停止 | IIS 停止、顔照合サーバーのプロセス停止 | なし |
| ↓ | | |
| 2. 各種データの切り戻し | DeepFace の切り戻し、顔認証サーバーの切り戻し | なし |
| ↓ | | |
| 3. 顔照合サーバーの特徴量の同期 | 顔照合サーバーのキャッシュファイル削除、顔照合サーバーの有効化 | なし |
| ↓ | | |

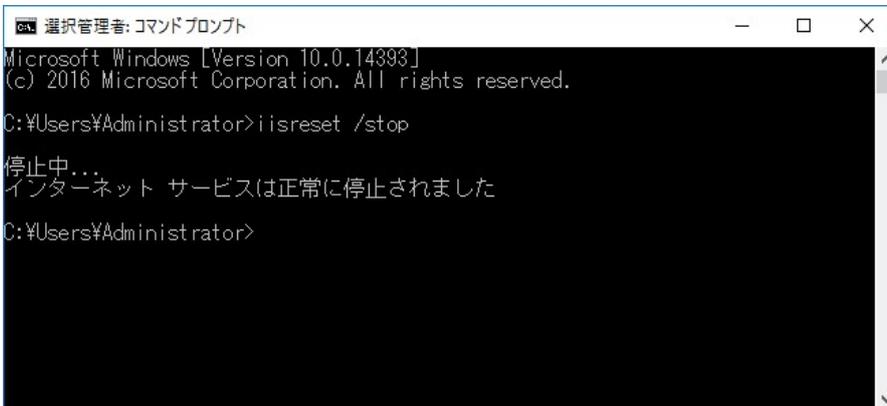
KPAS 管理サーバー、チェッカーやレジスターを接続し、登録や認証の動作確認を実施する。

4.2 プロセスの停止

以降の操作により、IIS と顔照合サーバーのプロセス停止を行ってください。

4.2.1 IIS の停止

- 1) [スタートボタン]-[Windows システムツール]-[コマンドプロンプト]を右クリックし、[その他]-[管理者として実行]をクリックします。コマンドプロンプトにて「iisreset /stop」を実行し、IIS を停止します。



```
選択管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

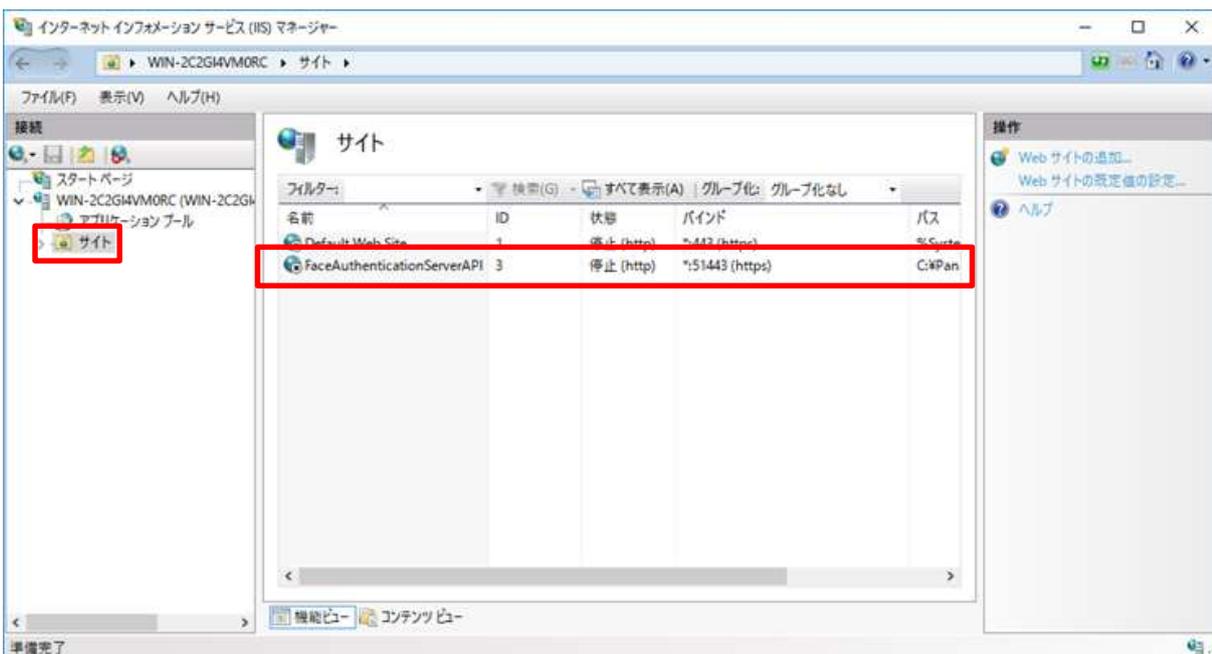
C:\Users\Administrator>iisreset /stop

停止中...
インターネット サービスは正常に停止されました

C:\Users\Administrator>
```

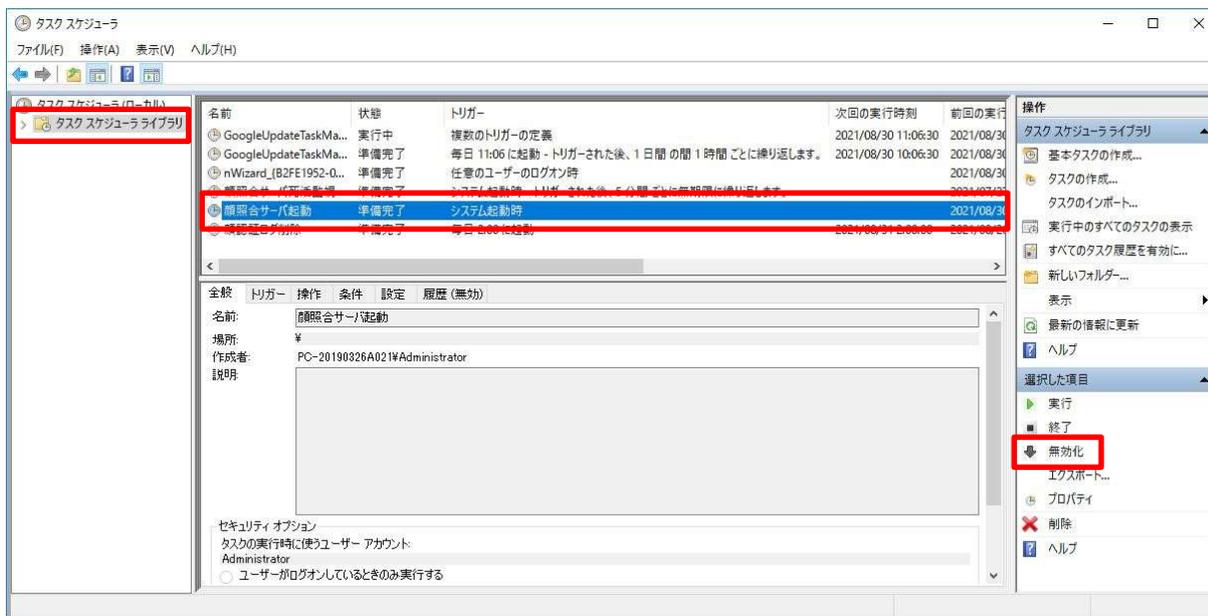
- 2) [スタートボタン]-[Windows 管理ツール][インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]を開きます。左側の接続メニューから[コンピューター名]-[サイト]をクリックします。中央のフォームで以下の Web サイトが停止していることを確認します。

FaceAuthenticationServerAPI

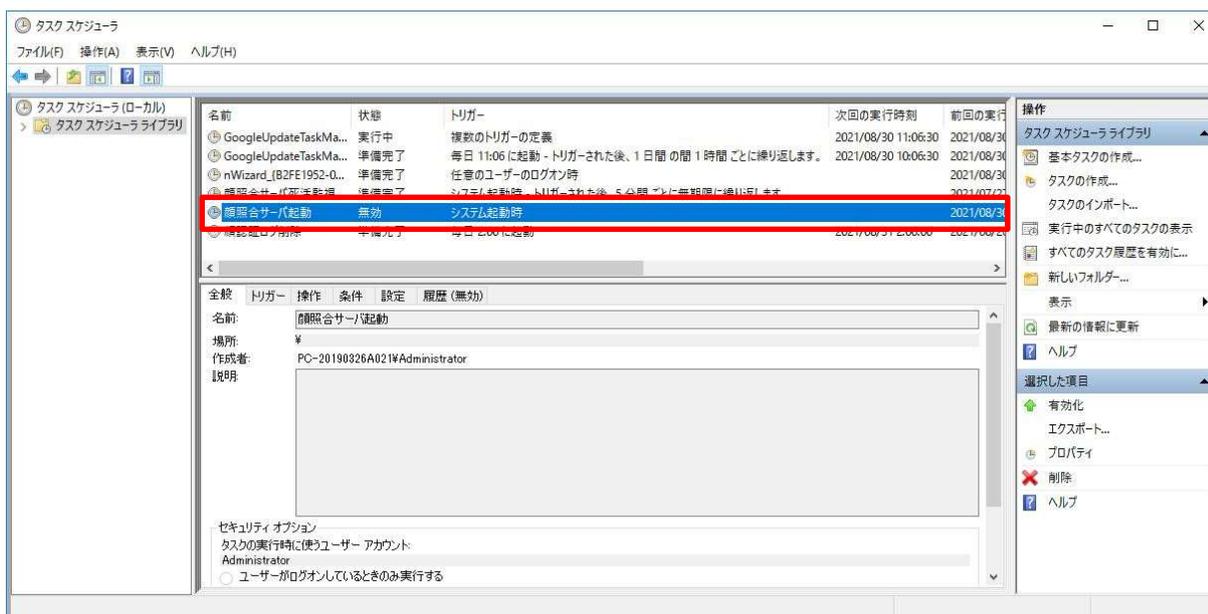


4.2.2 顔照合サーバーのプロセス停止

- 1) [スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[タスクスケジューラ]をクリックし、タスクスケジューラを起動します。左側のメニューで[タスクスケジューラライブラリ]をクリックし、中央のフォームから[顔照合サーバ起動]をクリックします。「顔照合サーバ起動」が選択された状態で、右側の操作メニューの[無効化]をクリックします。



- 2) 中央フォームの「顔照合サーバ起動」の状態が「無効」になっていることを確認します。



4.3 各種データの切り戻し

以下の手順に従い、各種データの切り戻しを行ってください。

4.3.1 DeepFace の切り戻し

- 1) C:\¥Panasonic 直下の DeepFace フォルダを削除してください。
- 2) C:\¥Panasonic 直下の DeepFace_bak フォルダのフォルダ名を「DeepFace」に変更してください。

4.3.2 顔照合サーバーアプリケーションの切り戻し

- 1) C:\¥Panasonic 直下の FaceAuthenticationServer フォルダを削除してください。
- 2) C:\¥Panasonic 直下の FaceAuthenticationServer_bak フォルダのフォルダ名を「FaceAuthenticationServer」に変更してください。

4.4 顔照合サーバーの特徴量の同期

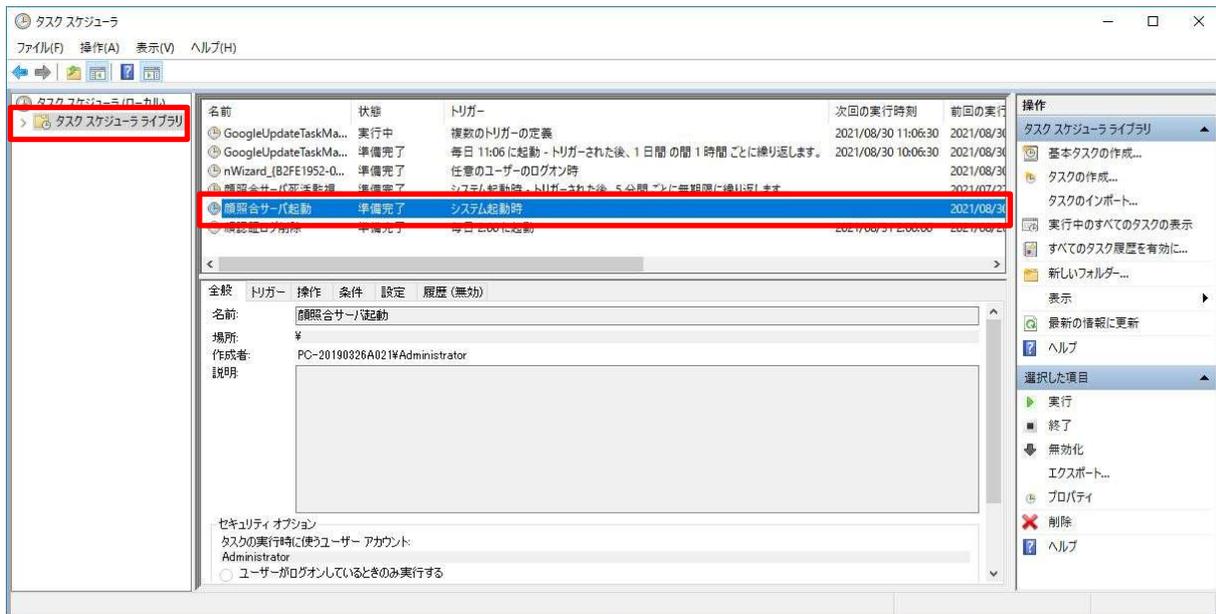
以下の手順に従い、顔照合サーバーのキャッシュファイルの削除を実行してください。

4.4.1 顔照合サーバーのキャッシュファイルの削除

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥cache 直下に保存されているキャッシュファイル(xx.cache)をすべて削除してください。

4.4.2 顔照合サーバーの有効化

- 1) [スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[タスクスケジューラ]をクリックし、タスクスケジューラを起動します。左側のメニューで[タスクスケジューラライブラリ]をクリックし、中央のフォームから[顔照合サーバ起動]をクリックします。「顔照合サーバ起動」が選択された状態で、右側の操作メニューの[有効化]をクリックします。中央フォームの「顔照合サーバ起動」の状態が「準備完了」になっていることを確認します。



- 2) 確認後、顔照合サーバーをシャットダウンしてください。LAN ケーブルを抜いている場合は挿入してください。

4.5 動作確認

顔照合サーバーおよび KPAS 管理サーバーの切り戻しが正常に行われていることを確認するため、動作確認内容は、KPAS 管理サーバーと同じです。

必ず顔照合サーバー、KPAS 管理サーバーが起動している状態で確認してください。

※動作確認は、KPAS 管理サーバーの切り戻しも完了してから実施してください。

顔照合サーバーと KPAS 管理サーバーのバージョンが異なっていると動作確認できません。

4.5.1 KPAS 管理サーバーの接続と起動

以下の接続方法と起動方法を実施してください。

1) KPAS 管理サーバーをネットワークに接続(LAN ケーブルを挿す)してください。

2) KPAS 管理サーバーを起動(電源 ON)してください。

(KPAS 管理サーバーは v1.0 に切り戻しされていること)

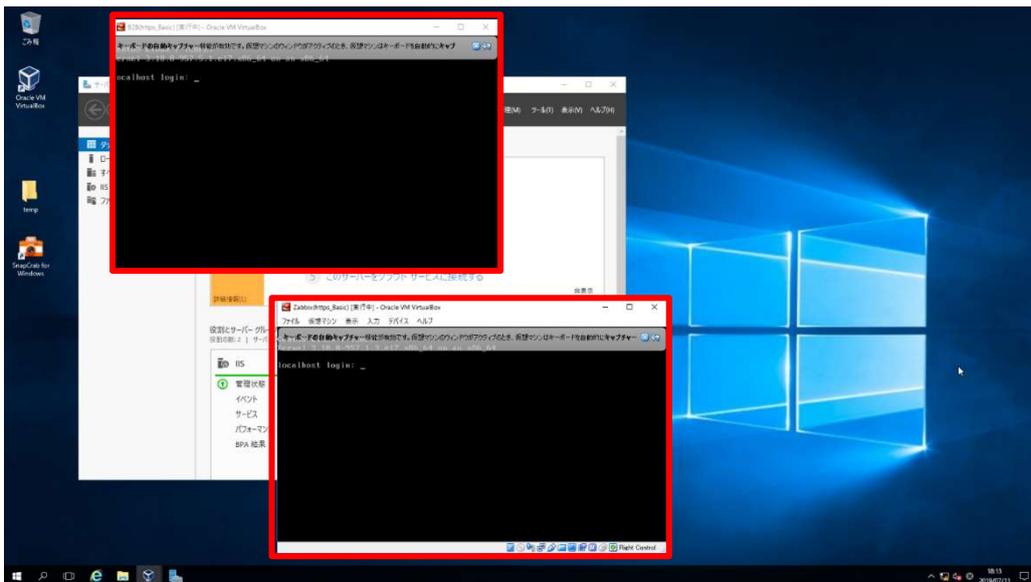
3) 起動後、KPAS 管理サーバーの起動確認を行います。

以下の 3 点が確認できれば KPAS 管理サーバーの起動が完了しています。

起動完了までには 5 分程度かかります。

以下の項目を確認してください。

① Oracle VM VirtualBox と記載されたウィンドウが 2 つ立ち上がっていること



② KPAS 管理サーバーが正常に起動していること

C:\¥Panasonic¥KpasManagementServer¥WebAPI¥log¥trace.log に以下の記載があることを確認します。

「DEBUG FaceManage.StartupProc - 起動処理終了」

③ KPAS 管理サーバー起動時にエラーが発生していないこと

C:\¥Panasonic¥KpasManagementServer¥WebAPI¥log¥Error.log_今日の日付.log に何も出力されていないことを確認します。

4.5.2 顔照合サーバーの起動と確認

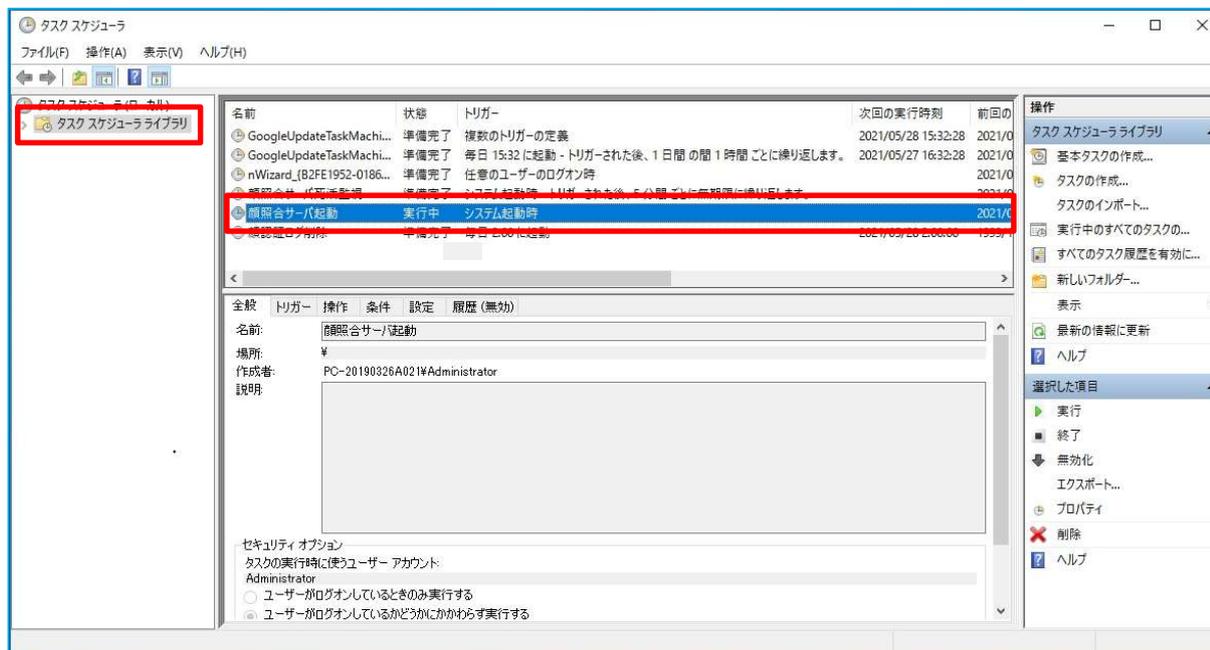
KPAS 管理サーバーが起動している状態で、以下の起動方法と確認を実施してください。

- 1) 顔照合サーバーを起動(電源 ON)してください。
- 2) OS 起動後 1 分経過したら Windows にログオンし、以下の項目を確認してください。

① 顔照合サーバーの起動状態確認

[スタートボタン]-[Windows 管理ツール]-[タスクスケジューラ]をクリックし、タスクスケジューラを起動します。

左側のメニューで[タスクスケジューラライブラリ]をクリックし、中央のフォームから「顔照合サーバ起動」の状態が「実行中」になっていることを確認します。



② 顔照合サーバーが正常に起動していること

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥log¥debug.log に以下の記載があることを確認します。

「INFO Main - 顔照合サーバー起動成功」

③ 顔照合サーバー起動時にエラーが発生していないこと

C:\¥Panasonic¥FaceAuthenticationServer¥ServerApplication¥log¥error.log に何も出力されていないことを確認します。

4.5.3 管理ポータルログイン確認

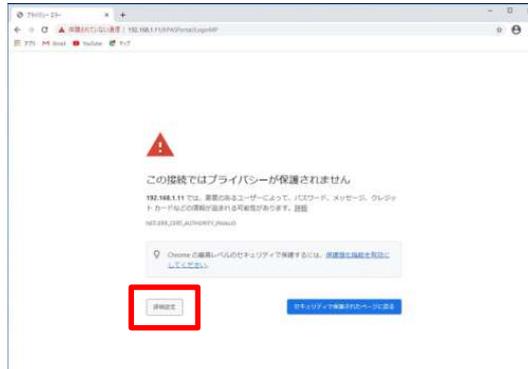
管理ポータルに接続し、ログイン画面から管理ポータルにログインができることを確認してください。

- 1) Google Chrome を起動し、以下の URL にアクセスします。管理ポータルログイン画面が表示されます。

「<https://192.168.1.11/KPASPortal/LoginMP>」

※SSL 証明書が自己証明書の場合、アクセス時に以下のセキュリティ警告が表示されます。

[詳細設定]をクリックします。



[192.168.1.11 にアクセスする(安全ではありません)]をクリックします。



- 2) 管理ポータルにログインします。(ログイン ID:SuperUser 、パスワード:件名で指定したパスワード)



- 3) 管理ポータル画面が表示されます。

4.5.4 顔登録の確認

レジスターまたは管理ポータルから顔登録(または更新)を行い、正常に登録(または更新)が完了することを確認してください。

4.5.5 顔認証の確認

チェッカーから KPAS に登録されている被認証者の認証を行い、認証 OK となることを確認してください。

※登録したデジタル名刺は動作確認が完了したら削除してください。